

履修コード	016601
科目名	演劇概論
担当者名	阿部 由香子

講義の到達目標(ねらい)	今日私たちが触れることのできる演劇は、多くの人々による絶え間ない試みが積み重なって生まれてきたものです。演劇が、なぜ、どのような変遷を辿ってきたのかを考え、同時に演劇のもつ可能性への感度を養うことを目的とします。授業は、講師による講義形式で行います。必要に応じて戯曲を読んだり映像資料を鑑賞したりします。
講義の内容／授業スケジュール	(1～3) 日本近代演劇の模索 (4～5) 近代演劇の黎明 (6～8) 大正期の日本演劇 (9～11) 関東大震災後の新劇 (12～15) 昭和初期、戦時中の新劇 (16～18) 戦後の新劇、60年代演劇 (19～21) 70年代演劇、80年代演劇 (22～24) 90年代から今日の演劇 (25～30) 演劇と社会
準備学習	受講者自身が日本演劇について知っていることと、よく分からないことをはっきりさせておくことによいでしょう。さらに、身の回りの演劇に積極的に関心をもつようによいでしょう。
履修上の留意点	少なくとも1回は劇場へ足を運んでもらい観劇してもらいます(観劇代金は自己負担です)。演劇に興味関心が全くない方にはおすすしません。
成績評価の方法	前期末に一度筆記試験を行います。後期は観劇レポートを提出してもらいます。試験(45%)とレポートの内容(45%)と出席状況(10%)によって評価します。
教科書／テキスト	授業中に資料を配布します。
参考書	授業時に適宜紹介します。

履修コード	012901
科目名	漢文学
担当者名	和田 和子

講義の到達目標(ねらい)	漢文を読解する為に必要な知識の習得を目指す。また、言語の系統を異にする日本語と中国語の、その隙間を埋めるべく完成された訓読という方法についての検討を行うことで、国語としての漢文の位置づけを明確にしていきたい。併せて資料の読解を通じて、悠久の歴史の中で行われた中国人の言語活動や文化的営為についての基礎的な知識を身につけていきたい。
講義の内容／授業スケジュール	前期は漢文学の基礎を学ぶ上で精読すべき資料を紹介・講読していく。また取り上げる漢文資料の内容に即して、適宜訓点の施し方、書き下し文の方法などを教授する。後期は漢文理解の鍵となる助字の用法やその他の文法的諸問題についての考察を行い、漢文の構造をより発展的に学べるようにしたい。
準備学習	授業の内容がより深く理解できるよう、漢文の構造や訓読の規則についての初歩的な知識に関しては、自分で必ず補っておくこと。その方法については、適宜各自に指導する。
成績評価の方法	期末に筆記試験を実施するとともに、出席状況、授業への参加の姿勢などにより総合的に評価する。
教科書／テキスト	教員が作成したプリント資料を用いる。
その他	主に教員が講義する形式となるが、取り扱う資料や講義の内容について、各自予習・復習をしておくことが望ましい。

履修コード	013001
科目名	漢文学
担当者名	和田 和子

講義の到達目標(ねらい)	漢文を読解する為に必要な知識の習得を目指す。また言語の系統を異にする日本語と中国語の、その隙間を埋めるべく完成された訓読という方法についての検討を行うことで、国語としての漢文の位置づけを明確にしていきたい。併せて資料の読解を通じて、悠久の歴史の中で行われた中国人の言語活動や文化的営為についての基礎的な知識を身につけていきたい。
講義の内容／授業スケジュール	前期は漢文学の基礎を学ぶ上で精読すべき資料を紹介・講読していく。また取り上げる漢文資料の内容に即して、適宜訓点や送り仮名の施し方、書き下し文の方法などを教授する。後期は漢文理解の鍵となる助字の用法やその他の文法的諸問題について考察を行い、漢文の構造をより発展的に学べるようにしたい。
準備学習	授業の内容がより深く理解できるよう、漢文の構造や訓読の規則についての初歩的な知識に関しては、自分で必ず補っておくこと。その方法については、適宜各自に指導する。
成績評価の方法	期末試験と出席日数で評価する。
教科書／テキスト	教員が作成したプリント資料を用いる。
その他	主に教員が講義する形式となるが、取り扱う資料や講義の内容について、各自予習復習しておくことが望ましい。

履修コード	012101
科目名	基礎国語学
担当者名	高田 智和

講義の到達目標(ねらい)	1. わたしたちが、話し、聞き、読み、書く日本語についての知識を深めます。 2. ことばを分析的にとらえ、観察する視点を養います。
講義の内容／授業スケジュール	前期 1. (1-5) 現代日本語の音声・音韻 2. (6-10) 音韻の変遷 3. (11-15) 日本語の文字体系 後期 4. (16-20) 漢字と仮名 5. (21-25) 語彙の分類 6. (26-30) ことばと位相
準備学習	授業終了前に次回の予定を説明するので、次回の授業前までに予定範囲の教科書を読むなど授業内容を予習しておくこと。
履修上の留意点	主に現代の日本語を扱いますが、歴史的な側面も取り上げます。
成績評価の方法	前期末と後期末の2回の試験を中心に、授業時間内に提出を求める課題を加えて総合的に判断します。
教科書／テキスト	佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院、1700円、ISBN 4-900137-51-0 適宜、補足のプリント・資料も配布します。
参考書	『国語学』(築島裕、東京大学出版会、1964) 『日本語史』(沖森卓也編、おうふう、1989) 『図解日本語』(沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本信吾、三省堂、2006)

履修コード	012201
科目名	基礎国語学
担当者名	原 裕

講義の到達目標(ねらい)	日本語研究の対象・方法についての基本事項を学習する。従来の研究によって解明された日本語の実相についての基本的知識を学ぶとともに、言語研究の目的・問題設定・方法などについての知識を習得し、日本語に対する幅広い問題意識を身につけることを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	〔第1回〕日本語研究への導入 〔第2～8回〕音声と音韻(現代語) 〔第9～14回〕文字と表記 〔第15～21回〕日本語の音韻の歴史 〔第22～25回〕日本語の語彙と文体 〔第26～30回〕日本の方言・言語生活・敬語表現
準備学習	使用するプリントを前もって配布する。予備学習として次週学習部分に目を通しておくことを勧める。
成績評価の方法	筆記試験の点数などを総合的に判断する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	授業において随時紹介する。

履修コード	012501
科目名	基礎国文学I
担当者名	近衛 典子

講義の到達目標(ねらい)	古典文学を読解するための基礎的な知識と研究方法を学びます。古典作品の読解を通じて、日本語の表現の奥深さや、時代により豊かに変化し広がっていく古典世界の面白さを理解し、古典研究に必要な基礎的な教養を身に付けます。
講義の内容／ 授業スケジュール	代表的な古典作品を具体的に読解していきます。古典を理解するための基礎知識や学術用語、文学史的な流れについても解説します。また、くずし字も学びます。 (1) ガイダンス、(2～7) 古典における基礎知識(暦法・文字の展開・写本と版本など) (8～13) 作品の読解(和歌・連歌・俳諧) (14) 前期末試験 (15) 前期のまとめ (16～23) 作品の読解(和歌から物語へ) (24～28) 作品の読解(近世の小説・国学の発達) (29) 後期末試験 (30) まとめ
準備学習	くずし字を読む練習を行ってください。
履修上の留意点	欠席の多い場合は評価の対象としません。
成績評価の方法	学期末試験、出席状況、小テスト、その他を総合的に判断します。
教科書／テキスト	『字典かな一出典明記一』(笠間書院)
参考書	授業中に紹介します。

履修コード	012301
科目名	基礎国文学I
担当者名	田中 徳定

講義の到達目標(ねらい)	古典文学を読解するための基礎的な知識を学び、古典文学を研究する方法を学ぶ。古典文学の読解を通して、日本語の表現の美しさ、おもしろさを知る。また、作品世界を深く読み込むことを通じて、古典文学は、なぜ時代を超えて人々の心を捉えてきたのかを考える。
講義の内容／ 授業スケジュール	古代から中世における代表的な古典文学作品を取り上げて読解する。併せて、作品読解に必要な古語の解釈方法、作品世界を理解するために必要な時代・社会背景について講義する。また、写本や版本を読むための基礎として、くずし字を読む練習も行う。 (1) ガイダンス、(2) 基本テキストの解説、(3～9) 神話の読解、(10～14) 『古今和歌集』読解、(15) 前期試験、(16) 「なぞなぞ」を考える、(17) くずし字を読む基礎練習、(18～21) 『竹取物語』読解、(22～26) 『伊勢物語』読解、(27～29) 説話文学の読解、(30) 後期試験
履修上の留意点	全授業数の三分の一以上欠席した場合は評価の対象としない。
成績評価の方法	出席状況、授業態度、小テスト、レポート、前後期末試験などによって総合的に評価を行う。
教科書／テキスト	その都度、プリントを配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。なお、くずし字を読むため、『字典かな一出典明記一 改訂版』(笠間書院、380円)を用意すること。

履修コード	012401
科目名	基礎国文学I
担当者名	松井 健児

講義の到達目標(ねらい)	古典文学読解のための基礎的な知識と方法を学ぶ。古語による言語表現の持つ広がりや深さを実感する。成立や時代背景の違いによる表現の多様性を受容し、積極的な理解へといたる教養を身につける。
講義の内容／ 授業スケジュール	韻文・散文における、代表的な古典文学作品の具体的な読解を示す。歴史的・表現史的な背景に触れ、あわせて研究への指針となるような術語についても解説する。(1～3) 近代国文学の形成、(4～6) 非日常言語の成立、(7～9) 景情の形成、(10～12) 言語遊技の諸相、(13～15) 集と部立、(16～18) 秀歌撰の成立、(19～21) 歌合の文学史、(22～24) 神話と古代、(25～27) 話型の発生、(28～30) 文学主題と表現形成。
履修上の留意点	自主性と積極性。欠席の多い場合は評価の対象としない。
成績評価の方法	①筆記試験 ②レポート ③出席状況 ④その他を総合して行う。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	授業時に紹介する。

履修コード	012601
科目名	基礎国文学II
担当者名	岡田 豊

**講義の到達目標(ねらい)** 日本近現代文学研究の基礎的な方法や概念を学ぶ。特に、様々な批評理論を武器にして適応することにより、小説作品の読解が多様に変化することを示し、テキストの可能性を取出す。同時に、日本の近現代小説への応用も行い、学んだ概念や方法をいかに活用して作品を読みかえるか、実例を挙げて解説する。

**講義の内容／授業スケジュール** (1) ガイダンス (2)～(4) 記号・作者・読者・テキスト (5) ストーリーとプロット (6)～(8) 語り手・視点と焦点化・人称 (9)～(10) 声・叙述 (11)～(12) 主人公・自我・個性と性格 (13)～(14) 記号とコード (15)～(16) ここまでのまとめ (17) 引用・期待の地平 (18)～(19) フェミニズムとジェンダー (20)～(23) ジャンル・フィクションとメタフィクション (24)～(25) メディア (26)～(27) 文化記号 (28)～(30) まとめ

**履修上の留意点** 配布プリントを使って読解を進める。小説の表現について考察する授業であるため、テキストを読んで授業に参加することをまずはお願しておきたい。多義的な表現のみずみずしさを味わい、ときに難解で手に負えないような手ごわい面にも触れていきたいと思う。どのような視点から、どのような方法で論じていくのかも習得してほしい。

**成績評価の方法** 前期と後期とそれぞれ一回ずつ筆記試験を実施する (50点×2回)。授業時間中に書かせるレポートも成績評価に反映させる。

**教科書／テキスト** 配布プリント

**参考書** 真銅正宏『小説の方法』萌書房、2400円税別、ISBN978-4-86065-028-5

履修コード	012801
科目名	基礎国文学II
担当者名	勝原 晴希

**講義の到達目標(ねらい)** 近現代の文学研究へのオリエンテーション(道案内)を行ない、具体的な作品を使ってのアプローチ(読解)の方法を習得する。作品をただ読むことと、読みを深めることの違いを理解し、さまざまなことに注意して考えながら読む姿勢を身につけることが目標である。

**講義の内容／授業スケジュール** 近現代文学についての概略的な講義を行なった後、近現代の代表的な短篇小说・評論・詩歌について作品の分析読解を進めて行く。それぞれの作品について、授業時間内に簡単なレポートを課し、その内容をふまえながら講義を進める。また基本的な研究の手づきについて講義する。  
第1・2回：ガイダンス、第3～5回：テキストと記号、第6～14回：短編小説を読む、第15回：前期テスト、第16回：前期内容の確認、第17～23回：短編小説を読む、第24・25回：評論を読む、第26・27回：童話を読む、第28・29回：詩歌を読む、第30回：総まとめ

**準備学習** たくさん読むこと、たくさん書くことが、基礎力をつくる。ふだんから読書・思考・表現の習慣を心がけて欲しい。

**履修上の留意点** 文学研究には基礎的な知識・技術の習得と主体的独創的な個別アプローチの両方が必要である。どちらか一方に偏らないよう、バランスを取りながら身につけていって欲しい。

**成績評価の方法** 前後期二回の試験、出席状況、受講態度、時間内レポートによる。出席回数のない学生は受験資格を失うことがあるので注意すること。

**教科書／テキスト** プリント配布。

**参考書** 授業中に随時指示する。

**その他** なし。

履修コード	012701
科目名	基礎国文学II
担当者名	高田 知波

**講義の到達目標(ねらい)** 近代の小説作品の読みを通じて、大学における国文学研究の基礎について学習する。

**講義の内容／授業スケジュール** (1) ガイダンス (2～10) 『坊っちゃん』講義 (11～19) 『伊豆の踊子』講義 (20～28) 『舞姫』講義 (29～30) まとめ。

**履修上の留意点** 小説の読みに、唯一絶対の《正解》というものは存在しない。作品解釈についての固定観念を根底から疑い、論拠に基づいた自分自身の《読み》を追求することが近代文学研究の基本なのだからということを、この授業を通して理解してほしいと思う。

**成績評価の方法** 原則として、年度末の筆記試験の結果によって評価を出す。欠席時数が多いと年度末試験の受験資格を失うことがある。

**教科書／テキスト** 夏目漱石『坊っちゃん』(新潮文庫) 森鷗外『阿部一族・舞姫』(新潮文庫) 川端康成『伊豆の踊子』(新潮文庫)

**参考書** 教場で指示する。

履修コード	014701
科目名	近世文学研究I
担当者名	川元 ひとみ

講義の到達目標(ねらい)	浮世草子という新しいジャンルを切り開いた井原西鶴の小説作法を探るとともに、江戸時代の女の人生を、その職業とともに考え合わせ、理解を深めて欲しい。
講義の内容／ 授業スケジュール	井原西鶴『好色一代女』を扱う。一代女は告白体小説である。一人の女の告白の中に男の語気やあるいは西鶴自身の素顔がのぞく。一代女は多くの職業を転々とするその女の経歴を描いているが、単に経歴譚とするには、内容的に不都合もある。西鶴が何を語ろうとしているのか、またその意図は何かということに主眼をおいて、一年間考えていきたい。 1回 井原西鶴とその時代について 2回 井原西鶴と浮世草子 3回 一代女の概要と問題点 4回～5回 「西鶴一代女」の映画 6回以降 各章を読む
準備学習	授業では時間の都合上、全文を扱うことはできない。授業時に宿題という形で読んでくるよう指導する場合もあるが、できればあらかじめでよいので作品を通読したうえで授業に臨んで欲しい。
履修上の留意点	授業のテキストは、活字本を使用するが、江戸時代に出版された当時の雰囲気を感じ取って欲しいという意図もあり、毎回、影印本のくずし文字を読んでもらう。その授業で扱う章の中の一部を解説するもので、プリントで配布し、授業の最後に回収する。したがって、毎回出席して、年度の終わりにはくずし字が読めるようになっていたという意欲のある者の履修を望む。
成績評価の方法	前期の「くずし字解読の試験」(30%)、後期の「レポート(原稿用紙10枚程度)」(50%)、出席状況(20%)、以上三点を合計して評価する。
教科書／テキスト	『好色一代女』(岩波文庫)横山重・岩波書店・819円
参考書	『西鶴事典』江本裕・谷脇理史編・おうふう  上記の事典にほとんどの参考となる事柄、書物等が載っている。事前に全体を概観したい場合に用いてもよいし、レポート作成の際に利用してもよい。いずれにしても、一通りは目を通しておくとよいだろう。

履修コード	014901
科目名	近代文学研究I
担当者名	榎本 正樹

講義の到達目標(ねらい)	現代日本文学作品(可能な限り最近の作品)の詳細な分析を通して、作家の方法論や作品固有の構造を明らかにします。さらに、作品の背後にある問題系、文化・事象との相互接続性、ジャンルの可能性を探り、現代日本文学とその環境を可視化していきたいと思えます。
講義の内容／ 授業スケジュール	現代日本文学のフィールドで重要だと思われる作家と作品を網羅的に解説・分析し、作品に内在するテーマ、モチーフ、文体、語りの技法、周辺メディアとの連関などを抽出していきます。扱う作品は主流系文学(純文学)が中心になりますが、その他のジャンルも対象となります。可能な限り最新作をとりあげていく予定です。授業で扱う作家・作品は、その都度アナウンスします。 今年度は、AmazonのKindleやAppleのiPadやSONYのReaderなどの読書端末が実現する、電子本の世界にも言及したいと考えています。また、昨年(2010年)映画公開された現代日本文学を原作とする映画(筒井康隆『時をかける少女』、森絵都『カラフル』、吉田修一『悪人』、村上春樹『ノルウェイの森』など)の中から何作かを観賞し、原作と比較・対照しながら、映像表現と言語表現の違いについて考える機会をつくりたいと思えます。 榎本は研究活動の一環として、作家へのインタビューや取材を積極的に行っています。授業では作家の生の情報や、文学界、出版界のトピックスなど、現代日本文学環境についての情報も紹介していく予定です。教室に作家の方をお呼びして、創作にまつわるお話を伺う機会なども、可能であれば実現したいと考えています。
準備学習	授業で扱う作品を事前に読んでいなくても理解できる形で進めますが、あらかじめ作品を読んでおくと、さらに理解が深まるでしょう。
履修上の留意点	現代日本文学のほか、映画や演劇のような周辺ジャンル、同時代のメディア全般に興味をもつ学生の履修を歓迎します。学生からの質問や問題提起にも積極的に応じます。
成績評価の方法	学年末提出のレポートの評価をメインに、出席点を加味し評価します。レポートのテーマや内容、分量等については、第一回目の授業時に話します。
教科書／テキスト	使用しません。必要な資料はプリントで配布します。
参考書	参考文献等は教室で適宜、指示します。
その他	講義形式をとります。履修に際しては、榎本のプロフィールや研究業績が掲載されているサイト( <a href="http://enmt.jp">http://enmt.jp</a> )も参考にしてください。
関連リンク	<a href="http://enmt.jp">http://enmt.jp</a>

履修コード	015001
科目名	近代文学研究II
担当者名	岡田 豊

講義の到達目標(ねらい)	明治以降の小説を、その小説が置かれている同時代的な(場)との連関を重視しながら読解する。目の前にある小説テキストの背後にある他のテキストとの結合や反発、葛藤といった運動をとらえながら、さまざまな問題を考えていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	「小説テキストのなかの同時代/同時代のなかの小説テキスト」という観点から読解作業を進める。小説中のちょっとした表現やある一文をどう解釈するのか、文の連なりとしてのテキスト総体が、どのような意味を生成するのか等について、同時代の状況と連関させて探る。また、同時代の文化状況や規範は、さらにその前に先行する時代のそれと重層的に絡み合い、テキストを複雑かつ多様なものにする。そのような動的な現象を可能な限り追い求め、目の前のテキストの背後に広がる無数のテキスト群とのつながりをできるだけ感じながら、テキストの可能性を考察する。第1回ガイダンス、第2回～第15回「明治期的小説を読む」、第16回～第20回「大正期的小説を読む」、第21回～第30回「昭和期的小説を読む」
履修上の留意点	難解なテキストを読みこんでいく。配布するテキストを事前に読み、授業後に復習をしなければ理解できない。難易度の高い授業内容となる。配布資料を丁寧にファイルし、ノートに効率よく要点を書き込み、問題点を整理するような勉強形態が継続できなければかなり苦しい一年になる。
成績評価の方法	前後期二回のテスト、出席状況、受講態度による。出席回数のない学生は受験資格を失うことがあるので、注意すること。
教科書／テキスト	プリント配布。

履修コード	013901
科目名	国語学研究I
担当者名	木村 一

講義の到達目標(ねらい)	江戸・明治期の日本語について考える。
講義の内容／ 授業スケジュール	ことばとは、ある時点での現在を反映すると共に、その前後と深いかかわりを持っている。変化の過程が著しい一時点として挙げられる江戸(幕末)から明治(初)期を中心に、語彙・語法に焦点を当て、広く日本語について考察したい。 概説(第1-3回)後、変化の過程(古典語から現代語)を眺めるための実例として、諸種の辞書(第4-8回)、随行録(第9-13回)・訳書(第16-20回)・著作(第21-25回)を取り上げ、ことばの一斑を明らかにしたい。また、当時の印刷事情にも触れる(第26-28回)。前期のまとめ(第14・15回)と全体のまとめ(第29・30回)を行う。
準備学習	授業時に配布する資料について、読み込んでおくこと。
履修上の留意点	主として講義形式で進めるが、併せて、文献を利用した基礎作業や、課題の報告などを行う。
成績評価の方法	授業への参加姿勢、出席状況、試験・レポートなどを総合して評価する。
教科書／テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	森岡健二著 『改訂 近代語の成立 語彙編』 明治書院 沖森卓也編 『日本辞書辞典』 おうふう 惣郷正明著 『日本語開化物語』(朝日新書360) 朝日新聞社 丸山真男・加藤周一著 『翻訳と日本の近代』(岩波新書 新赤版580) 岩波書店 高島俊男著 『漢字と日本人』(文春新書198) 文芸春秋 その他、授業を通じ必要に応じて紹介する。

履修コード	013801
科目名	国語学史
担当者名	木村 一

講義の到達目標(ねらい)	言語研究の歴史について考える。いつ・どこで・誰が・どのような研究を行ってきたのかを国語学の視点から理解し、説明できるようにすることを目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	国語についての研究は、古代から様々な観点でなされてきている。その流れを大きくテーマによって区分し(古語への意識、音韻の研究、文法の研究、語彙の研究、キリシタンの日本語研究など)、概観したい。また、国語学史上、欠かすことのできない資料の読解もあわせて行う。 前期は、日本語学の時代区分(第1回)、国語学史の意義(第2-3回)、古語の意識(第4-6回)、音韻の研究(第7-9回)、仮名遣いの研究(第10-12回)、文法研究(第13-15回)をあつかう。後期は、方言の研究(第16-18回)、アクセントの研究(第19-21回)、語彙の研究(第22-24回)、キリシタンの日本語研究(第25-27回)、西洋人の日本語研究(第28-30回)をあつかう。
準備学習	教科書の該当箇所を事前に通読しておくこと。
履修上の留意点	テキストの分類に沿って講義形式で授業を進めるが、プリントなどによる資料を配布して、受講者による調査・作業も行う予定である。積極的な取り組みを希望する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢、出席状況、試験・レポートなどを総合して評価する。
教科書／テキスト	『国語学史』(第3版) 馬淵和夫・出雲朝子 笠間書院 ¥1,890
参考書	『国語学史資料集』 国語学会編 武蔵野書院 『国語史資料集』 国語学会編 武蔵野書院 『資料日本語史』 沖森卓也編 おうふう 『古典日本語の世界』 東京大学教養部国文・漢文学部会 東京大学出版会 その他、授業を通じ必要に応じて紹介する。

履修コード	015101
科目名	国語学特講I
担当者名	山本 真吾

講義の到達目標(ねらい)	院政鎌倉時代の文体研究。国語史研究の谷間と言われる当代の言語に注目し、歌謡・和歌、物語、説話、随筆、軍記の諸文体について、多角的に考察する。
講義の内容／ 授業スケジュール	【前期】※以下の項目に従って、講義を行う。 1、院政鎌倉時代語の研究水準と問題点(1、2回) 2、文献資料の多様性(3回) 3、歌謡・和歌の表現と文体、筆記試験(1)(4~8回) 4、院政期仮名物語の文体、筆記試験(2)(9~14回) 5、前期の総括(15回) 【後期】※以下の項目に従って、講義を行う。 1、説話文学の表現(1、2回) 2、今昔物語集の表現と文体、筆記試験(3)(3~5回) 3、方丈記と徒然草の文体(6~11回) 4、平家物語の文体、筆記試験(4)(12~14回) 5、後期の総括(15回)
履修上の留意点	図書館等に所蔵の関連文献を大いに活用してほしい。
成績評価の方法	前期、後期それぞれ各単元の終わりに筆記試験を行う(授業スケジュール参照)。合計4回行い、それぞれ25%の配分として評価を行う。これを総合して6割を単位認定の最低基準とする。
教科書／テキスト	用いない。適宜プリントを配布する。(無断欠席の場合、後日プリントを希望しても応じられないので留意されたい)
参考書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	015201
科目名	国語学特講II
担当者名	高田 智和

講義の到達目標(ねらい)	1. コンピュータを利用した日本語研究の方法と考え方を習得します。 2. 利用可能な電子化テキストとその利用法について理解します。 3. 電子化テキストを用いた日本語研究の現状と課題を解説します。
講義の内容/ 授業スケジュール	前期 1. (1-3) ことばの計量的研究 2. (4-7) 文字コードと漢字処理 3. (8-15) 正規表現とテキスト処理 後期 4. (16-19) 文字量を測る 5. (20-28) 語彙量を測る 6. (29-30) 統計処理
準備学習	授業時配布のプリントによって復習をすること。
履修上の留意点	授業では総合学術センターのパソコンを使用します。授業は講義のほか、パソコンを使用した実習を行うので、理由のない欠席はしないでください。
成績評価の方法	授業への出席状況、実習時(授業時間内)の課題提出、期末試験によって総合的に判断します。
教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考書	『計量言語学入門』(伊藤雅光、大修館書店、2002) 『パソコンを使う日本語研究』(『日本語学』14巻7月臨時増刊号、明治書院) 『新聞電子メディアの漢字-朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表-』(横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・エリク=ロング、三省堂、1998)

履修コード	018901
科目名	国語国文学演習I
担当者名	岡田 豊

講義の到達目標(ねらい)	日本近代文学の研究と発表についての基礎的な方法を学ぶ。〈基礎演習〉の授業であるから、作品を論理的に分析し、新たな読解を切り拓くことを実践するわけであるが、他人に研究報告するというプレゼンテーション能力の開発も重視する。ひとり楽しく自由気ままに読むのではなく、読んだことを他人に伝え、刺激するために深く時間をかけて読むことを実践する。先行研究の調べかたやレジュメの作りかたなど、基礎的な事項から解説する。
講義の内容/ 授業スケジュール	一つの作品につき二回の授業をあて、発表はすべて学生が行う。 基礎演習にあたるので、研究方法、発表技術に重点をおく。
履修上の留意点	発表を担当する回は絶対に欠席しないこと。場違いな発言や稚拙と思われるような質問も、基礎演習だから恥じることなく思い切って発言してほしい。他人に上手に伝えることができる人は他人の意見に耳を傾け、妨害しない人である。白熱した議論は大歓迎だが、危険な暴走は慎みたい。また、人の発表や発言の最中に落書きを書いて上の空だったり、居眠りをして聞く気なしという失礼極まりない態度をとるのもやめてもらいたい。そういうマナーも身につけてほしい。
成績評価の方法	原則として発表が100%だが、発表回数にかたよりが出た場合はレポート提出なども考慮する。また、単位認定には七割以上の出席を条件とする。 夏期課題レポートを課している。ある条件に満たしていない場合には、クリアするまで何度も書き直しをしてもらっている。
教科書/テキスト	東郷克美・吉田司雄編『近代文学【都市】を読む』双文社出版、2000円、ISBN4-88164-072-0

履修コード	019101
科目名	国語国文学演習I
担当者名	勝原 晴希

講義の到達目標(ねらい)	近現代の詩歌について学ぶとともに、研究報告と討論を通して、詩作品についての自分の考察をまとめ、発表する力を養う。
講義の内容/ 授業スケジュール	近現代(明治~平成)の詩歌を読む。対象とする詩人・歌人・俳人は各参加者の希望によるが、場合によっては振りあてることもある。担当者の報告と参加者全員による討論によって進めていく。なお、詩歌関係の博物館・美術館等への訪問を予定している。 これまでに採りあげた詩人の例を、以下にあげておく。 北原白秋・高村光太郎・三好達治・中原中也・室生犀星・萩原朔太郎・宮澤賢治・立原道造・武者小路実篤・草野心平・小熊秀雄・石原吉郎・八木重吉・寺山修司・茨木のり子・石垣りん・金子みすゞ・富岡多恵子・谷川俊太郎・町田康
履修上の留意点	各人の積極的な参加を求める。
成績評価の方法	発表報告の内容、毎回の課題、討論への参加状況、出席、レポートを総合して評価する。欠席回数に制限があるので、注意すること。
教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	授業時に指示する。

履修コード	019251
科目名	国語国文学演習I
担当者名	川島 淳史

講義の到達目標(ねらい)	近代文学の研究方法について学ぶ。この基礎演習では、調査・考察・発表の基本を身につけることを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	この授業では、大正時代から昭和初期に発表された小説を扱う予定である。分析する作品や発表の仕方については、最初の授業で説明し、それぞれ担当を決めていきたい。 この授業は演習科目であるから、学生が主体となって進めてもらうことになる。特に発表者は割り当てられた作品について、責任を持って調査し、あらかじめ自分の考えをレジュメにまとめて配布しておくこと。参加者は、発表の内容に対して疑問な点を質し、意見があれば積極的に自分の考えを述べる。提起された問題点について、全員で考え、真剣に討議していきたい。 以下、現時点で予定している作家を挙げておくが、学生の希望があれば、同時代の他の作家も加えていきたい。 森鷗外・永井荷風・谷崎潤一郎・佐藤春夫・志賀直哉・武者小路実篤・有島武郎・芥川龍之介・横光利一・川端康成・梶井基次郎・井伏鱒二・葉山嘉樹・小林多喜二
履修上の留意点	発表を担当する日は休まないこと。参加者は、必ず作品を読んでおき、テキストと配布されていたレジュメを持参すること。マナーを守って、積極的に発言することを望む。
成績評価の方法	発表の内容、出席状況、討論での発言、レポートなど総合的に評価する。出席していても、態度が悪かったり、私語・居眠りをしている者は単位を認定しない場合がある。
教科書／テキスト	四月に年間予定を話し合っ、扱う作品を決定し、文庫本で入手できるものは各自購入しておいてもらう。入手困難なものは、こちらでプリントを配布する。
参考書	授業時に指示する。

履修コード	018701
科目名	国語国文学演習I
担当者名	近衛 典子

講義の到達目標(ねらい)	江戸時代の作品には、それ以前に成立した物語、和歌、謡曲、中国白話小説等、数多くの典拠が用いられており、その作品世界に奥行きを与えています。単にストーリーを追うだけではなく、幅広い古典知識を踏まえて読解することを目指します。
講義の内容／ 授業スケジュール	上田秋成の晩年の和文和歌集『藤簾冊子(つづらぶみ)』を、受講者の研究報告形式で読み進めます。語彙・事項を調査するのはもちろんのこと、典拠を一つ一つ確認・分析し、それを踏まえて文章の内容を正確に読解します。その上で、近世に新しく誕生した「和文」の概念について追求します。江戸時代の生活を知るために、古民家見学も予定しています。 (1~2) ガイダンス・発表担当部分の決定、(3~30) 口頭発表
成績評価の方法	口頭発表、質疑応答への参加の態度、出席状況、レポートによって総合的に評価します。
教科書／テキスト	プリントを配付します。
参考書	授業中に指示します。

履修コード	019001
科目名	国語国文学演習I
担当者名	高田 知波

講義の到達目標(ねらい)	年間テーマは「太宰治を読む」。太宰治は青年層の間で人気の高い作家であるが、「太宰治」という神話が作品の読みを著しく束縛してきたことも確かである。作中人物の言葉をただちに「太宰」の肉声だと決め込んでしまうようなバイアス(先入観、偏見)からいかにして作品を解き放ち、自由で豊かな「読み」を生産していくか。学生相互による壮大な共同作業を追求する演習を目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) ガイダンス・履修者確定 (2) 導入授業・発表分担決定 (3) 『魚服記』の発表と質疑 (4) 『魚服記』のディスカッション 以下、1作品2週間のペース(1週目は発表と質疑、2週目はディスカッション)で、『人間失格』までの演習を進めていく。
履修上の留意点	毎時間テキストを読んで出席することは最低限のルール。そして「演習の主役は学生である」という原則に則って、活発な発言を行うという姿勢で演習に臨んでほしい。
成績評価の方法	平常点と、期末のレポートの採点結果とを総合的に評価する。
教科書／テキスト	『晩年』、『走れメロス』、『お伽草紙』、『斜陽』、『ヴィヨンの妻』、『人間失格』(いずれも新潮文庫)
参考書	教場で指示する。

履修コード	018601
科目名	国語国文学演習I
担当者名	田中 徳定

講義の到達目標(ねらい)	古典文学を読解・調査していくための基本的な文献を学び、それらの文献によって実際に古典文学作品を読解する方法を身につけることを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	『徒然草』をとりあげ、語彙調査の方法や歴史的史料の扱い方を学ぶ。また、関連する物語・説話にも広く眼を向けて、中世の人々の思想や信仰、及び平安時代以来の貴族文化の美意識について探究する。
履修上の留意点	演習科目であるので、基本的に欠席をしないこと。また、他の演習生の発表に対して質問するなど、積極的に授業に参加すること。
成績評価の方法	出席状況、授業時間内に行なう口頭発表、レポートによって総合的に評価を行なう。
教科書／テキスト	鈴木知太郎・西一祥編『新注 徒然草』(おうふう)1,800円
参考書	授業中に随時指示する。
その他	受講生に発表する章段を割り当てる。受講生は、発表担当章段について、調査、考察を行ない、その結果をレジュメにまとめ、授業中に口頭発表を行なう。

履修コード	018401
科目名	国語国文学演習Ⅰ
担当者名	津島 知明

**講義の到達目標(ねらい)** 『枕草子』を読みながら、平安時代の宮廷文化、貴族社会に生きた人々の考え方・感じ方に接してもらいます。さらに、そこに日本文化のひとつの基層を見出してほしいと思います。また、「かな文字」に触れてもらうなど、古典文学を学ぶ上で必要な基礎知識も身につけてもらいます。

**講義の内容／授業スケジュール** 「春はあけぼの」ばかりが有名な『枕草子』ですが、授業では演習を通して、できるだけ多様な章段に触れてもらうつもりです。各々担当章段を選び、作成した資料をもとに口頭発表してもらいます。担当範囲の中から問題点を見つけ、必ず自身の考察を加えること。発表に際しては、聞く側にもコメントを求めます。まずは、(1)ガイダンス(2)古典文学の本文(3)時代背景(4)作品概説(5)文献の調べ方(6)担当割り当て(7～9)写本に触れる等、準備期間を置いてから、以下(10～29)担当者による演習発表に入る。最後に(30)まとめとレポート。

**成績評価の方法** 発表内容、質疑応答、出席状況、授業時レポートなどを総合して評価します。

**教科書／テキスト** 『新編枕草子』(おうふう)

**参考書** 授業時に紹介します。

履修コード	018501
科目名	国語国文学演習Ⅰ
担当者名	鶴巻 由美

**講義の到達目標(ねらい)** 古典文学の調査・研究の方法の基礎を学びつつ、中世文学を代表する軍記物語に親しむ。

**講義の内容／授業スケジュール** 『平家物語』巻七を読む。原則として一回の発表で、一人一章段を採り上げる。章段を選び、自分でテーマを設定して調査し、報告する。必要に応じ、諸本の比較、周辺作品との比較を行う。発表後の討議の中で自分の問題意識を掘り下げる。後日、レポートにまとめて提出する。  
1～3 『平家物語』と巻七の説明  
4 担当章段の決定  
5～ 発表と討議

**履修上の留意点** 学生自身が、些細であっても自分なりの問題点や関心を持つこと。また、自身の発表時以外には積極的に質疑・討論に参加すること。

**成績評価の方法** 口頭発表、レポート、出席、授業態度、質疑への参加の様子を踏まえて総合的に判断する。

**教科書／テキスト** 『平家物語』三(岩波文庫)

**参考書** 授業中に適宜指示する。

履修コード	018001
科目名	国語国文学演習Ⅰ
担当者名	土井 光祐

**講義の到達目標(ねらい)** ○現代語に至る日本語の歴史を文献資料で具体的に跡づける中で、日本語の変遷の実態を確認し、言葉の「調べ方」の基本を学ぶ。  
○室町時代末期(1500年代末)を基準点として、個々の表現を視点に文語規範の基盤である古代語(1000年頃)から現代語(2010年)までの国語史を往復し、現代日本語の形成過程を考察する。

**講義の内容／授業スケジュール** 1593年刊行の「天草版金句集」を国語史の観点から分析する。  
天草版金句集は、天草版平家物語、同伊曾保物語と合綴されて、ロンドン・大英図書館に所蔵されているローマ字本口語体キリシタン資料の一種で、最古の日本語学習用教材である。  
16世紀半ばに渡来したイエズス会の宣教師達は、当時の日本の格言を学んでキリスト教の布教に利用しようとした。漢籍等に典拠を持つ文語体の格言に、16世紀末の「口語訳」を付したもので、室町時代末期の口語資料として知られている。室町時代における文語体と口語体とを、音韻、文法、語彙、文体等の諸点から言語比較して、現代語の形成過程を具体的に観察する。  
【第1回～第3回】教員より資料の概説と調査方法の説明。  
【第4回～】順番にレポーターを決めて、レジユメを作成し、発表する。

**成績評価の方法** 出席点、発表内容、質疑への参加態度、レポート内容の総合。

**教科書／テキスト** プリントを配布。

**参考書** 授業中に紹介。

**その他** eラーニングシステムYeStudyを適宜利用する。

履修コード	018101
科目名	国語国文学演習Ⅰ
担当者名	中嶋 真也

**講義の到達目標(ねらい)** 日本現存最古の歌集『万葉集』を読むことを通じ、古代日本人の感性や知性を感じてもらうことを目標とします。また、古典文学研究の実際を体得し、自身の理解したことを他の人に正確に伝えるための発表技術(資料作成ならびに口頭発表)を習得することも目標とします。

**講義の内容／授業スケジュール** 『万葉集』は漢字で日本語を書く時代に産まれました。「日本人のふるさと」のような捉え方で今なお賞讃されています。表記体系も異なる中、どういったところが、どのように我々の琴線に触れるのか。一首一首を丹念に読み、それを体感していきます。  
『万葉集』は4500首以上もの膨大な歌数を収めていますが、演習Ⅰでは、読んだことがある歌、どこかで見たことがある歌、親しみやすい歌を取り上げます。  
具体的には、現在刊行されている、『万葉集』の解説本や抄出したものをもとに、多くの本で取り上げられている歌々、つまり『万葉集』の代表歌と称される歌々から受講者は希望の歌を選んで、調査・発表してもらいます。  
授業スケジュール予定は以下の通りです。  
第1回 ガイダンス、第2～5回 『万葉集』概説、調査方法解説、担当決定、第6～14回 発表、第15回 前期まとめ、第16～29回 発表、第30回 後期まとめ

**準備学習** 多くの予備知識を要求することはありません。復習を重視してください。

**履修上の留意点** 演習は学生主体ですから、欠席は極力慎むこと。

**成績評価の方法** 発表内容を特に重視します。質疑、それに対する応答、提出物、出席状況も加味して総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』(和泉書院 2008)

**参考書** 必要に応じて、授業中に指示します。

履修コード	018801
科目名	国語国文学演習I
担当者名	林 達也

講義の到達目標(ねらい)	基礎演習である、この演習を通して、自分で調べて読み、且つ理解する姿勢を養成し、3年次以降の演習に自立的に参加できる能力を身につけることを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	松尾芭蕉の俳諧を精読する。今年度は句と散文が融合した作品『おくの細道』を素材とする。旅立ちから順次作品の進行に従って読む事を予定しているが、場合によっては商章談を適宜選択することもあり得る。この旅に同行した曾良随行日記も併せて読み、また、各地で行われた連句にも目を配ることにしたい(数人の共同による文学賞がどのようになされ、どのような作品世界を紡ぎ出すのか。近代では忘れ去られている文学創作方法に接し、言葉が生み出しうる豊かな世界を知り、やせた文学の世界から脱する道を開くため)。
準備学習	レポーターに当たっていない受講生もその週の該当箇所の下読みは必ずしてこなければならない。4月開講時まで、芭蕉の生涯について調べ、知っておくこと。これを受講許可条件とする。
履修上の留意点	演習は、教員と受講生の共同作業という基本的な合意がなければならない。積極的に、演習に参加しようとする学生、授業に集中できない学生の受講は避けられたい。「準備学習」でも述べたように、下読みは必ずしてこること。受講する学生は、当然のこととして、レポーターへの質問、ないしはアドバイスすることを、義務とする。
成績評価の方法	担当レポートの質、毎時の演習での参加態度、学年末の提出レポートの成果などを総合的に判断して評価する。
教科書／テキスト	萩原恭男校注『おくのほそ道』(岩波文庫)
参考書	開講時に紹介する。
その他	毎授業、受講生のレポートを中心に授業を進めるレポートに当たった担当者は、調べ(言葉風俗習慣、連句の作法など)、まとめ、発表資料(レジュメ)を作成し、聞き手に正しく伝達する(所謂プレゼンテーション)訓練に励み、本格的な国文学の勉強の第一歩としよう。

履修コード	018301
科目名	国語国文学演習I
担当者名	松井 健児

講義の到達目標(ねらい)	平安時代物語の研究を自立的に展開できる基礎的な方法および意識を養う。具体的には、『源氏物語』を対象とし、その物語内容を理解するのみではなく、その内容を導き出す、古代物語の方法や構造をとらえることに主眼を置く。
講義の内容／ 授業スケジュール	受講者による研究報告形式をとる。『源氏物語』「初音」「胡蝶」以降の巻を直接の対象として、巻の前後へと派生し展開していく諸問題を考察する。本文を読み込み、合わせてさまざまな注解や論文を読むことによって、たんなる感情移入や印象批評におわることなく、『源氏物語』の全体像を視野に入れたうえでの分析的な研究を展開できる技術を養う。(1~2)『源氏物語』概説・参考文献紹介、(3~4)基礎演習・発展演習の方法、(5~6)『源氏物語』基礎研究、(7~8)当該巻全体報告、(9~10)担当範囲分担報告、(11~18)演習発表、(19~20)レポート説明、(21~28)演習発表、(29~30)レポート発表。
履修上の留意点	演習科目は学生相互の協力によって成り立つ。おのおのの発表にさいして提供しあう情報量と質が、この科目の成否を決定することに留意してほしい。
成績評価の方法	受講者による (1) 演習発表資料 (2) 発表内容 (3) レポート (4) 出席状況 (5) その他を総合して行う。
教科書／テキスト	石田穰二・清水好子・校注、新潮日本古典集成『源氏物語 四』(新潮社)
参考書	参考書は授業時に紹介する。

履修コード	020201
科目名	国語国文学演習II
担当者名	岡田 豊

講義の到達目標(ねらい)	作品を熟読し、関連資料を調べ、分析を行い、レジュメ(発表概要)をまとめ、発表(プレゼンテーション)を行い、議論を行うプロセスを通して、研究的視座に立って文学テキストにアプローチする方法をさらに深く学ぶ。同時に、テキスト間の関連や、同時代の状況との関連性を探る広い視野からの考察を実践する。その分、基礎演習より難易度が上がる。 また、卒業論文の作成に向けた準備の意味合いを持った授業と考えたい。日本近現代文学を研究対象とした卒業論文作成に不可欠な専門的ツールの獲得とその実践的な運用の仕方も指導するので、できれば、そのような具体的な目標を持った人の受講が望ましい。
講義の内容／ 授業スケジュール	昭和30年代以降の小説を研究対象とする。 履修者が確定する第1回目の授業時に、発表方法、発表回数、担当チーム、年間スケジュール等を決める。 基本的には、数人の発表者が自分たちが決めた作品について発表を行い、全員でその作品についてディスカッションを重ねる。  【参考】2010年度研究作品(今年度扱うとは限らない) 田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』 山田詠美『こぎつねこん』 村上春樹『眠り』 桐野夏生『月下の楽園』 石田衣良『うつくしい子ども』 宮部みゆき『R. P. G.』 阿部和重『ニッポニアニッポン』 吉田修一『パーク・ライフ』 伊坂幸太郎『ポテチ』
履修上の留意点	履修者は演習という授業形式を自覚し、主体的に発表を行い、積極的にディスカッションに参加するよう努めてほしい。報告担当者以外からの新たな問題提起や、見落とされた問題点の指摘を活発に行ってほしい。発言する人が毎回同じ人とか、教員のコメントを待ちわびるというような受け身の態度はいっさい認めていないので、参加した以上は精一杯頑張ってもらおう。
成績評価の方法	発表内容と出席点をメインに、授業への参加度(ディスカッションでの発言等)を加味し評価する。年度末にレポートの提出を求めるが、発表と討論を主とする。 夏期課題レポートを課している。ある条件に満たしていない場合には、クリアするまで何度も書き直しをしてもらっている。
教科書／テキスト	授業時に指示する。基本的には文庫本がテキストになる。

履修コード	020401
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	勝原 晴希

講義の到達目標(ねらい)	近現代の詩歌について学ぶとともに、研究報告と討論を通して、詩人とその作品についての自分の考察をまとめ、発表する力を深める。
講義の内容／ 授業スケジュール	近現代(明治～平成)の詩歌を読む。対象とする詩人・歌人・俳人は参加者の希望によるが、場合によっては振りあてられることもある。担当者の報告と参加者全員による討論によって進めていく。なお、詩歌関連の博物館・美術館等への訪問を予定している。 これまでに採りあげた詩人の例を、以下にあげておく。 谷川俊太郎・三好達治・新川和江・宮澤賢治・萩原朔太郎・高村光太郎・辻仁成・金子みすゞ・小野十三郎・若山牧水・中原中也・中野重治・寺山修司・立原道造・西脇順三郎・野口雨情・西條八十・大木惇夫・石垣りん・山村暮鳥・まどみちお・工藤直子・鮎川信夫・田村隆一・清水哲男・荒川洋治・伊藤比呂美
履修上の留意点	各人の積極的な参加を求める。欠席回数に制限があるので、注意すること。
成績評価の方法	発表報告の内容、毎回の課題、討論への参加状況、出席、レポートを総合して評価する。
教科書／テキスト	プリント配布。
参考書	授業時に指示する。

履修コード	020001
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	近衛 典子

講義の到達目標(ねらい)	浮世草子という江戸時代における現代風俗小説を題材として、近世小説を読む際に必要な事項・語彙の調査方法を身に付け、また西鶴作品の面白さを味読します。
講義の内容／ 授業スケジュール	教材とする『西鶴名残の友』は井原西鶴の遺稿集で、西鶴自身の交友が反映された作品です。各自が担当する章段について、登場人物や俳壇の状況、作品の舞台等の地理的事項、典拠となった作品、語彙・事項など、作品を理解する上で必要な点を調査し、さらにその作品のテーマについて考察します。 (1～2) 井原西鶴および『西鶴名残の友』の概説、担当章段の決定、(3～) 口頭発表
履修上の留意点	単に作品の文脈を追うだけではなく、作品世界の背後にある文化的慣習、法律体系、語彙を支える典拠など、幅広い関心を持って調査を進めて下さい。
成績評価の方法	口頭発表、質疑応答への参加の態度、出席状況、レポートによって総合的に評価します。
教科書／テキスト	プリントを配付します。
参考書	授業中に指示します。

履修コード	020301
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	高田 知波

講義の到達目標(ねらい)	年間テーマは、「近代100年の小説を読む」。明治前期から1960年代末頃までを対象範囲とする。森鷗外、樋口一葉、泉鏡花、島崎藤村、夏目漱石、志賀直哉、芥川龍之介、谷崎潤一郎、川端康成、梶井基次郎、太宰治、岡本かの子、三島由紀夫、遠藤周作、大江健三郎等々、近代100年間の代表的作家たちの代表的作品(小説に限定)を読んでいく。各作品を表現と構造に即して精読することと、100年の文学的流れを体感することを旨とする演習である。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) ガイダンス、履修者確定 (2) 年間スケジュール確定(演習で取り上げる作品の確定と発表分担の決定。作品は学生の希望を重視して決定する) (3) 1作品2週間のペース(1週目は発表と質疑、2週目はディスカッション)で演習を実施する。
履修上の留意点	毎時間、必ずテキストを読んで出席することが最低限のルールである。自分が発表を分担しない作品についても、積極的に発言する姿勢を全員に強く求めたい。
成績評価の方法	平常点と年度末レポートの採点結果とを総合して成績評価を出す。
教科書／テキスト	取り上げる作品ごとに発表チームがテキストを指定するが、入手の容易な文庫本を原則とする。
参考書	教場で指示する。

履修コード	019901
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	田中 徳定

講義の到達目標(ねらい)	院政期に成立した代表的説話集である『今昔物語集』を読解しながら、説話の伝承や変遷の様相について考える。同時に、説話が描き出す時代や社会のありようを探究し、さらには人々の思想・信仰について考察する。
講義の内容／ 授業スケジュール	『今昔物語集』の説話について、鬼・天狗・陰陽道・狐、また笑話等、興味を持ったテーマを設定して、当時の人々の生活や信仰のありようを調査、研究し、その様相を探っていく。
履修上の留意点	専門科目の演習授業であるため、出席を基本とする。また、授業において、必ず口頭発表を行なってもらう。
成績評価の方法	出席状況、授業中に行なう口頭発表、レポートによって総合的に評価を行なう。
教科書／テキスト	今野達編『新注 今昔物語集選』(大修館書店)1,260円
参考書	授業中に随時指示する。
その他	受講生に発表担当する説話を割り当てる。受講生は、担当する説話について調査・考察を行ない、その結果をレジュメに作成し、授業中に口頭発表を行なう。

履修コード	019801
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	鶴巻 由美

**講義の到達目標(ねらい)** 平家物語は鎌倉時代に成立したと考えられているが、作者・成立年代のみならず原態もすべて不明であり、その解明に向けて研究が進んできたと言っても過言ではない。  
平家物語の作品世界を知り、内容を精読し味わうことと、研究上の問題がどのように関わるのか、具体的な問題に触れつつ考えていく。

**講義の内容／授業スケジュール** 『平家物語』の登場人物、事件、事象、事柄などから関心をもつテーマをとりあげ、研究上の諸問題についてまとめ、その上で自分なりの問題点を設定し、調査し、発表する。  
全体を追ってもよいし、部分に絞ってもよい。但し、絞る場合でも、必ず全体を見通した上での発表となるように。  
寛一本を中心とし、精読する中で生み出される疑問を出発点とすること。その際、なるべく他種の異本も視野に入れること。  
1～3 『平家物語』の説明  
4～ 発表

**履修上の留意点** 問題点は書誌学・国語学・芸能・和歌・説話・音楽・宗教他、多方面にわたり、また、歴史との関わりにも注意を向ける必要がある。学生自身が自分なりの関心と問題意識を掘り下げられる機会となることを願う。  
発表の前週に資料を配っておくこと。  
授業中の討論に積極的に参加し、必ず一回は発言すること。

**成績評価の方法** 口頭発表、レポート、出席、質疑への参加の様子を踏まえて総合的に判断する。

**教科書／テキスト** 授業中に適宜指示する。

**参考書** 授業中に適宜指示する。

履修コード	019301
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	土井 光祐

**講義の到達目標(ねらい)** ○文語規範の原点にある平安時代語が徐々に変質して近代語化する様相を、鎌倉時代成立・書写資料に基づき観察する。  
○特定の文献を国語史的観点から具体的に考察することによって、国語史の基礎知識、研究方法、文献学的な処理の方法を身に付ける。

**講義の内容／授業スケジュール** 中世は、現代語に通じる日本語の大転換期と言われ、近代語の芽生えの時代とされている。  
本演習は、言語資料として鎌倉時代に活躍したカリスマ的学僧である明恵上人の言行録である「脚癩忘記(きゃくはいもうき)」鎌倉時代(1235年)写本の写真版を使い、国語学的に考察する。  
「脚癩忘記」は、明恵上人の没後三年を経て、弟子が明恵上人存命中に発言した言葉をそのまま文字化した可能性を有する希有の口語資料として知られ、漢字片仮名交り文で記されている。文献学的手続きを厳密に適用して、古代語から近代語への過渡期にあたる鎌倉時代の言語の実態を表記史、音韻史(和語、漢字音)、文法史、語彙史、文体史の諸点から考察していく。  
発表は原則として前期1回、後期1回の計2回を予定している。前期は文献学的手続きの基礎を学ぶことを目的とする。後期は発表者が任意の言語事象を選び、自由な視点から調査する。  
【第1回～第3回】教員より資料の概説と調査方法の説明。  
【第4回～】順番にレポーターを決めて、レジュメを作成し、発表する。

**成績評価の方法** 出席点、発表内容、質疑への参加態度、レポート内容の総合による。

**教科書／テキスト** プリント配布。

**参考書** ○高山寺典籍文書総合調査団編『明恵上人資料第二』(東京大学出版会)  
○田中久夫他『鎌倉旧仏教』(日本思想大系)(岩波書店)  
○高橋秀栄『大乘仏典 中国・日本篇第20巻 栄西・明恵』(中央公論社)  
※その他授業中に指示する。

**その他** eラーニングシステムYeStudyを適宜利用する。

履修コード	019401
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	中嶋 真也

**講義の到達目標(ねらい)** 『万葉集』の理解を深めることを根本のねらいとします。  
前期は一つの共通テーマを設定し、そのテーマに沿った歌の発表をし、思考方法や知識などの共有、ならびに討議の水準を高めることを目標とします。後期は受講者各自が、研究する歌人もしくは『万葉集』の享受を具体的にたどれる作品を定めて、その歌人の詠歌もしくは享受された作品について発表し、『万葉集』の理解をさまざまな観点から深めることを目標とします。

**講義の内容／授業スケジュール** 前期は、受講者全員で一つのテーマを研究していきます。候補としては、「宴」、「恋」(贈答)、「旅」などが考えられます。  
後期の歌人研究は、『万葉集』の代表的な歌人(額田王、柿本人麻呂、山上憶良、大伴坂上郎女、大伴家持など)を受講者各自1人取り上げ、その詠歌に関して調査発表してもらいます。  
後期の享受研究は、『後撰和歌集』、『古今和歌六帖』、『新古今和歌集』といった歌集や、『奥義抄』、『和歌童蒙抄』といった歌学書、仙覚『万葉集註釈』、真淵『万葉考』といった『万葉集』そのものの注釈書などが主な対象となります。

授業スケジュール予定は以下の通りです。  
第1回 ガイダンス、第2～5回 『万葉集』概説、調査方法解説、担当決定、第6～14回 テーマ研究発表、第15回 前期まとめ・後期ガイダンス、第16～29回 歌人・享受研究発表、第30回 後期まとめ  
随時、博物館など文化施設で上代の文化への見聞を深めていくことも予定しています。

**準備学習** 復習を充実させてください。

**履修上の留意点** 地道な努力を怠らず、卒業論文を視野に入れて意欲を持って取り組んでください。  
演習の主体は、学生の側にあります。欠席は極力慎むこと。

**成績評価の方法** 発表内容を特に重視します。質疑、それに対する応答、提出物、出席状況も加味して総合的に評価します。

**教科書／テキスト** 井手至・毛利正守『新校注 万葉集』(和泉書院 2008)

**参考書** 必要に応じて、授業中に指示します。

履修コード	019601
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	袴田 光康

講義の到達目標(ねらい)	本年度は、『和泉式部日記』を読みます。この作品は、今から千年ほど前の僅か十カ月間の恋の行方を、147首の和歌を中心に描いた短い作品ですが、そこには社会に抗う精神と実験的な新しい表現の試みが見られます。本演習では、時代背景・和歌表現・仏教思想などにも留意して、「けしからぬ女」が生きた「はかなさ」とは何かを一緒に考えながら、社会や文学の枠組みを批評する力を養っていききたいと思います。
講義の内容／授業スケジュール	授業は、受講生の発表と討議を中心に進める形になります。受講生には、割り当てられた担当範囲について、注釈書などをもとに校異・語釈・問題点・考察をまとめ、レジュメを作成した上で発表を行ってまいります。(1)『和泉式部日記』の概説と参考文献の紹介、(2)和泉式部とその時代について、(3～4)調査方法とレジュメの作成方法、(5)モデル発表、(6～26)演習発表、(27)レポート説明、(28～29)レポート討論、(30)まとめ
準備学習	指名して意見や質問を求めることもありますので、全ての受講生は、毎回、該当本文を予め下読みをしてから授業に臨んでください。また、早い段階で『和泉式部日記』を通読しておく必要があります。古文がどうしても苦手という方には、現代の小説ですが、鳥越碧『後朝』（講談社文庫、710円）あたりから読むことをお勧めします。
成績評価の方法	(1)発表、(2)レポート、(3)出席、(4)授業での発言、この四点から総合して評価します。
教科書／テキスト	近藤みゆき訳注『和泉式部日記』（角川ソフィア文庫）740円、ISBN-13：978-4043699018
参考書	清水文雄『和泉式部集・和泉式部続集』（岩波文庫）945円、中島尚『和泉式部全注釈』（笠間書院）12600円、増田繁夫『冥途 評伝和泉式部』（世界思想社）1995円、唐木順三『無常』（ちくま学芸文庫）1050円、など。その他の参考書については授業時に紹介します。

履修コード	020101
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	林 達也

講義の到達目標(ねらい)	基礎演習である演習Ⅰを経た上での展開の位置にある演習である。 参考書の読みをうまく消化することから発展して、自分で調べて読む姿勢を強め、むしろ、自分が参考書を作成する意気込みを持つ。ちなみに、本年対象とする作品には、参考書、注釈書は極端に少ないことを承知しておくこと。
講義の内容／授業スケジュール	数年前から近世の女性の紀行・日記を読む演習を続けており今年度は読み応えのある、幕末の勤王派の女性志士で、歌人でもある野村望東尼が獄中で書き継いだ『娘島日記』を読む。前項でも記したように参考書もあまりなく、まして注釈書はない。従って、受講生自身で注釈をつけ、現代語訳を施してゆくことになる。困難はあるが、それだけにやりがいのある演習になる。
準備学習	4月開講時まで、野村望東尼について自分で調査し、基礎的な知識と理解を持つておくこと。これを受講許可条件とする。
履修上の留意点	演習は、教員と受講生の共同作業という基本的な合意がなければならない。積極的に、演習に参加しようとならない学生及び授業に集中できない学生の受講は避けられたい。
成績評価の方法	担当レポートの質、毎時の演習での参加態度、学年末の提出レポートの成果などを総合的に判断して評価する。
教科書／テキスト	プリント教材を用意する。
参考書	開講時に紹介する。
その他	調べ、まとめ、発表資料(レジュメ)として、聞き手に正しく伝達する(所謂プレゼンテーション)訓練に励み、卒業論文作成へのよき準備にしよう。

履修コード	019501
科目名	国語国文学演習Ⅱ
担当者名	松井 健児

講義の到達目標(ねらい)	『源氏物語』にあらわれる、王朝貴族の美意識や生活様式を探り、その作品世界への文芸化の方法を考察する。古代物語を形成するうえでの基礎的な構造の把握と、その制度的な構造から逸脱する、一回的な感覚世界との緊張関係を読み解くことによって、作品自体が常に新たなものとして生成していく、動態としての『源氏物語』観を獲得する。
講義の内容／授業スケジュール	受講者による研究報告形式をとる。『源氏物語』の「葵」「賢木」の巻を直接の対象として、巻の前後へと派生し展開していく諸問題を考察する。本文を読み込み、合わせてさまざまな注解や論文を読むことによって、『源氏物語』の全体像を視野に入れたうえでの分析的な研究を行ない、それらによって得られた知見を論理的に構成し、批評できる力を養う。(1～2)『源氏物語』概説・参考文献紹介、(3～4)基礎演習・発展演習の方法、(5～6)『源氏物語』基礎研究、(7～8)当該巻全体報告、(9～10)担当範囲分担報告、(11～18)演習発表、(19～20)レポート説明、(21～28)演習発表、(29～30)レポート発表。
履修上の留意点	演習科目は学生相互の協力によって成り立つ。おのおのの発表にさいして提供しあう情報量と質が、この科目の成否を決定することに留意してほしい。
成績評価の方法	受講者による (1)演習発表資料 (2)発表内容 (3)レポート (4)出席状況 (5)その他を総合して行なう。
教科書／テキスト	石田穰二・清水好子・校注、新潮日本古典集成『源氏物語 二』（新潮社）
参考書	授業時に紹介する。

履修コード	021401
科目名	国語国文学演習III
担当者名	岡田 豊

**講義の到達目標(ねらい)** 日本の近現代文学を対象とした卒業論文作成のための指導、助言を行う。「学士」の研究論文の指導であり、通常の演習形式の授業の指導とは違うという意識を持って臨んでもらいたい。提出に向かって、計画的で着実な実務を遂行する。他者の質問や意見に謙虚に耳を傾け、それを貪欲に吸収して自己の問題解決に活かす姿勢を身につけてもらいたい。

**講義の内容／授業スケジュール** 卒業論文論題提出前に個人指導を行い、対象とする作家、作品を決定していく。また、授業においては前後期を通じて順次、各自が卒業論文に関連する作品について個人で口頭発表を行い、教員も含めて出席者全員による討論によって検討を進めていく。夏季休暇中に、卒業論文のベースとなるレポートを、ワープロ書式で10ページ以上(400字詰原稿用紙30枚以上)の提出を義務付けている。後期は添削しながら完成に近付けていく。後期においても、各自の卒業論文執筆の進捗状況に応じて随時、個人指導を行う。

**履修上の留意点** 発表や個人指導などにおいて意欲的かつ主体的に取り組む姿勢を見せて欲しい。また、卒業論文は指導教員の指導のもとで作成するものであるから、授業や個人指導に積極的に出席しなければならない。計画を立てずに、ただ進めるのではなく、より良いもの、より納得のいくものを各自が目指してほしい。

**成績評価の方法** 発表内容、発表後に提出するレポートの内容、卒業論文執筆のための計画と姿勢ならびに出席状況等を総合的に評価する。

**教科書／テキスト** 必要に応じて、授業時に指示する。

**参考書** 必要に応じて、授業時に指示する。

履修コード	021601
科目名	国語国文学演習III
担当者名	勝原 晴希

**講義の到達目標(ねらい)** 近現代の詩歌を読むことを通じて、作品を読み味わう力を養い、また研究の方法を学ぶ。あわせて卒業論文作成に向けての指導を行なう。

**講義の内容／授業スケジュール** 近現代の詩歌を読む。対象とする詩人・作品は学生の希望(原則として卒業論文に関連するもの)を尊重するが、場合によっては振りあてることもある。担当者の報告と参加者全員による討論によって進めていく。

**履修上の留意点** 各人の積極的な参加を求める。欠席回数に制限があるので、注意すること。

**成績評価の方法** 発表報告の内容、討論への参加状況、出席、レポートを総合して評価する。

**教科書／テキスト** プリント配布。

**参考書** 授業時に指示する。

履修コード	021201
科目名	国語国文学演習III
担当者名	近衛 典子

**講義の到達目標(ねらい)** 卒業論文を作成するための基本的な力を養うことを目的とします。各自の卒業論文のテーマに合わせて取り上げる作品を決定、必要な資料の検索方法、論文の書き方などを指導します。

**講義の内容／授業スケジュール** 各自の研究テーマに従い、調査・研究方法、論文作成方法などへの助言を行います。夏休み前には中間発表会も行います。

**履修上の留意点** 主体的な取り組みが必要です。

**成績評価の方法** 卒業論文作成に向けての研究態度、授業時の参加態度、論文の達成度、などを総合的に判断します。

履修コード	021001
科目名	国語国文学演習III
担当者名	鈴木 彰

**講義の到達目標(ねらい)** 卒業論文作成の指導を行う。

**講義の内容／授業スケジュール** 学生自身の問題意識の先鋭化と具体化を助け、研究方法と実際の論文作成にあたっての助言を行う。  
1～3 卒業論文の書き方・諸注意  
4～ 学生自身の発表と討議

**履修上の留意点** 学生自身の自主的な活動に負う。

**成績評価の方法** 卒業論文の内容と完成に至る過程。

**参考書** 授業時に適宜指示する。

履修コード	021501
科目名	国語国文学演習III
担当者名	高田 知波

**講義の到達目標(ねらい)** 各自の小説の読みを深めることと、卒業論文制作のために生きる相互学習を行うことを二本柱にした演習である。両者が有機的に結びつくことによって成果のあがることを目指したい。

**講義の内容／授業スケジュール** (1) ガイダンス (2) 発表分担、年間スケジュールの確定(作品は卒論テーマを見据えつつ発表者自身が決定する) (3) 以下、1作品1週のパースで演習を実施し、全員の卒論提出をめざす。

**成績評価の方法** 平常点と年度末レポートの採点結果とを総合して成績評価を出す。

履修コード	021101
科目名	国語国文学演習III
担当者名	田中 徳定

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文作成のための指導を行なう。
講義の内容／ 授業スケジュール	年度始めに「卒業論文研究計画書」を提出してもらう。その研究計画に沿いながら、授業中に口頭発表を行なってもらう。その都度、発表内容をまとめたレポートを提出してもらう。また、論文の作成方法について、随時、具体的に指導を行なう。
履修上の留意点	専門科目の演習授業であるため、出席を基本とする。
成績評価の方法	授業中に行なう口頭発表と、それをまとめたレポートによる。
参考書	授業中に随時指示する。

履修コード	020601
科目名	国語国文学演習III
担当者名	土井 光祐

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文執筆のための具体的な手続きについて、発表を繰り返して検証していく。
講義の内容／ 授業スケジュール	以下の手続きを段階的、相互補完的に整理して、発表してもらう。 1、卒論の候補となる仮設的なテーマを設定する。 2、研究史の確認（リスト化して、コピー、ファイリングし、読む）。 3、学問体系の中での研究の意義を確認する。 4、研究対象とする言語資料を設定する。 5、具体的な研究方法を設定する。 以上をその都度文章化し、ある段階からサンプリング調査、ポーリング調査を試験的に行って、研究の適切性の検証を繰り返していく。1～5はそのまま卒論内の序論となる。
履修上の留意点	1～5の検証を経ずして論題の設定はあり得ない。徹底した調査が不可欠となる。熱意ある取り組みには真摯に応える。
成績評価の方法	出席点50% 発表内容50%
参考書	授業時に随時紹介。
その他	eラーニングシステムYeStudyを適宜利用する。

履修コード	020701
科目名	国語国文学演習III
担当者名	中嶋 真也

講義の到達目標(ねらい)	上代文学で卒業論文を作成する学生を対象に指導を行います。
講義の内容／ 授業スケジュール	卒業論文作成に向け、必要な調査方法や具体的な作業について、指導・助言を行ないます。演習として、前期・後期それぞれ最低1期間の発表を義務とし、9月と11月に文章化した課題を提出してもらいます。個別面談も随時行ないます。 授業スケジュール予定は以下の通りです。 第1回 ガイダンス、第2～14回 発表・面談、第15回 前期まとめ、第16～29回 発表・面談、第30回 後期まとめ
履修上の留意点	自分の研究課題を自覚し、卒業論文に結び付くよう発表や課題に取り組んでください。また、他の受講生の発表などからも大きな刺激を得られるよう、集中して授業に参加してください。
成績評価の方法	演習の発表内容、提出物、出席、討議への参加などを総合的に評価します。
教科書／テキスト	坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』（和泉書院）
参考書	必要に応じて、授業中に指示します。

履修コード	020901
科目名	国語国文学演習III
担当者名	西本 香子

講義の到達目標(ねらい)	平安時代の文学を対象とした卒業論文作成を指導し、学生個々に大学での学業の総括を促す。
講義の内容／ 授業スケジュール	まず、論文作成法・資料収集法について指導し、次いで平安時代の文学を研究するにあたっての基礎的な参考文献を紹介する。その後、各自、卒論テーマを決定。夏期レポートは各自のテーマに沿って卒論の一部を執筆する。後期は毎回の授業の前半を中間発表、後半を教員と一対一の個別指導にあてる。学生は毎回、教員に進展状況を報告し、疑問点などの指導を受けることになる。また中間発表を聞いた学生の感想メモを発表者に渡すことにより、学生間の相互評価を行って卒論作成の刺激とする。  (1) 論文とは (2) 資料検索法指導 (3) 卒論テーマの提出・参考文献紹介 (4～10) 初期発表 (11～15) 卒論具体例の研究 (16～18) 夏期レポートと仮目次の提出 (19～25) 卒論中間発表 (26～30) 本目次提出・直前発表
履修上の留意点	各自の主體的な姿勢が求められる。
成績評価の方法	(1) 発表内容 (2) レポート (3) 出席 を総合して評価する。
教科書／テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	授業時に指示する。

履修コード	021301
科目名	国語国文学演習III
担当者名	林 達也

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文作成のための演習である、この演習を通して、卒論対象作品作家を深く理解し、自分なりの切り口、作品作家と渡り合う方法を見出す努力をしよう。担当教員(林)の最終年度に当たる。従って、本年12月には、必ず卒業論文を提出するという強い決意をもって演習に参加すること。
講義の内容／授業スケジュール	受講生の選ぶ対象にしたがう。
準備学習	担当者が与える課題に対する解答(文章化したもの)を必ず用意すること。是を怠る学生については責任は持たない。
履修上の留意点	演習は、教員と受講生の共同作業という基本的な合意がなければならない。積極的に、卒業論文作成に向かい合えない学生の受講は避けられたい。11月末には卒業論文を完成させるという強い意志をもつこと。
成績評価の方法	卒業論文作成へ向けての姿勢、卒業論文の質、毎時の演習での参加態度、等を総合して評価する。
教科書／テキスト	対象作品作家に応じた教科書を指示する。
参考書	開講時に紹介する。

履修コード	020801
科目名	国語国文学演習III
担当者名	松井 健児

講義の到達目標(ねらい)	平安時代文学を対象とした、卒業論文作成の指導、助言。
講義の内容／授業スケジュール	卒業論文は学生生活の総決算ともいえる重要な課題である。対象の決定-問題設定-参考文献の検索-文献目録-研究史の把握-資料作成-中間報告-論述の方法-など、いくつかの段階を設定して、論文の作成を自主的に行えるよう指導、助言する。また『源氏物語』の読みから卒業論文テーマの実例を考える。(1~3)卒論テーマの提出、(4~7)『源氏物語』第一部、(8~11)『源氏物語』第二部、(12~15)『源氏物語』第三部、(16~19)夏期レポート提出・卒論具体例の研究、(20~23)中間発表会第一部、(24~27)中間発表会第二部、(28~30)目次・序文提出・報告会。
履修上の留意点	自主性と積極性。
成績評価の方法	受講者による (1) 演習発表資料 (2) 発表内容 (3) レポート (4) 出席状況 (5) その他を総合して行なう。

履修コード	013701
科目名	国語史
担当者名	山本 真吾

講義の到達目標(ねらい)	古代から近代にかけての日本語の流れを概説する。多様な文献資料の複雑な言語変化のさまを観察してみたい。その際には、言語活動の主体である当時の人々の社会、生活、文化、宗教とのかかわりも重視し、観点も文字・表記、音韻、文法、語彙、文体と幅広く取り上げたい。
講義の内容／授業スケジュール	【前期】※以下の項目に従って、講義を行う。 1、国語史の研究水準と問題点(1回) 2、奈良時代の文字・表記、筆記試験(1)(2~4回) 3、奈良時代の音韻(5回) 4、平安時代の文学表現と言語、筆記試験(2)(6~13回) 5、院政期言語の諸問題(14回) 6、前期の総括(15回) 【後期】※以下の項目に従って、講義を行う。 1、鎌倉時代の日本語、筆記試験(3)(1~3回) 2、室町時代の日本語(4~7回) 3、江戸時代の日本語8~10回) 4、幕末明治期言語の諸問題、筆記試験(4)(11~14回) 5、後期の総括(15回)
履修上の留意点	図書館等に所蔵の関連文献を大いに活用してほしい。
成績評価の方法	前期、後期それぞれ各単元の終わりに筆記試験を行う(授業スケジュール参照)。合計4回行い、それぞれ25%の配分として評価を行う。これを総合して6割を単位認定の最低基準とする。
教科書／テキスト	用いない。適宜プリントを配布する。(無断欠席の場合、後日プリントを希望しても応じられないので留意されたい)
参考書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	013301 013302
科目名	国文学史I A (古典) 国文学史I (古典)
担当者名	鈴木 裕子

講義の到達目標(ねらい)	上代から近世に至るまでの日本文学史の流れを把握し、日本文化を理解するための基礎的な知識を身につける。また、現代を生きる私たちにとって文学とはいかなるものかを総合的に考えるための広い視野を養う。
講義の内容/ 授業スケジュール	・授業の概要 文学史上重要な作品や事柄を取り上げ、時代背景や作品の影響関係などを解説しながら紹介していく。 ・授業計画 (1) 総説・文学史とは何か、(2～6) 上代の文学……神話、上代の詩歌、(7～14) 中古の文学……中古の詩歌、仮名文学の成立と達成、(15) まとめ・上代から中古まで、(16～23) 中世の文学……中世の詩歌、中世物語の世界、和歌と連歌、遁世者の文学、(24～29) 近世の文学……近世文学の概要、近世の詩歌、近世小説、古典芸能の流れ、評論 (30) 総括……日本文化の伝統と創造について
準備学習	授業用プリントとは別に自習用問題を配布する。
履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、毎回コメント等の提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
成績評価の方法	前期2回、後期2回行う筆記試験80%、平常点20%で評価する。平常点は、出席状況、コメント、小テスト等で評価する。なお、三分の一以上欠席すると筆記試験の受験資格を失う。授業中の私語や途中退室等をする者には厳しく対処する。「代返」などの不正行為を行った場合は平常点を0点とする。
教科書/テキスト	『日本古典文学史』(双文社出版) 1,785円 その他、プリント教材。
参考書	授業中に必要に応じて指示する。

履修コード	013401 013402
科目名	国文学史I B (古典) 国文学史I (古典)
担当者名	藺部 幹生

講義の到達目標(ねらい)	日本の古典文学史全般にわたって講義するが、単なる知識の修得に終わるのではなく、時代背景や理念、作品の文学史的意義、作品間の関連などについても理解し、考える力を身につけることを目的とする。
講義の内容/ 授業スケジュール	1 講座説明。2 時代区分と時代概念およびジャンル意識。3～6 韻文の文学(和歌)。7～10 韻文の文学(連歌・俳諧)。11 歌学書。12 歴史文学。13 軍記文学。14 日記・紀行文学。15 随筆文学。16 物語文学。17 説話文学。18～28 課題文学史。29 教場試験。30 まとめ。
準備学習	必要に応じてその都度指示する。
履修上の留意点	毎時間、最初に、確認テストを行い、最後にその日の講義内容に関する意見文の提出を求める。必ず原稿用紙を持参すること。
成績評価の方法	確認テスト30点、毎時間の意見文30点、教場試験40点の割合で評価する(教場試験はテキスト・ノート・辞書・参考書等持込可。確認テストは持ち込み不可)。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達(該当者・テーマ・提出期限等)を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
教科書/テキスト	高木博、佐々木克衛、神谷吉行編『新日本文学史要説・古典』双文社出版、1500円+税。
参考書	必要があればそのつど紹介する。

履修コード	013501 013502
科目名	国文学史II A (近現代) 国文学史II (近現代)
担当者名	小林 治

**講義の到達目標(ねらい)** 明治以降、近代から現代に至るまでの日本文学の流れを概観しつつ、時代との関わりの中で生成される作品の系譜を考える。ひいては文学史の構築を可能ならしめるべく、近代以降の文学の展開と歴史の消長の間に独自の法則性を見つけ出すことをこの授業の到達目標とした。

**講義の内容／授業スケジュール** 小説による表現を主軸として文明開化期から昭和の終り(1988)までにおいて、個々の作家ならびにその集団が作り出した文学潮流と変転する歴史の潮流との相剋に焦点をあて、一連の作品生成の流れにどのような法則性があるかについて言及していく。その際、基本的な文学史事項の説明だけでなく、できるだけ具体的に個々の作品の本文と照らし合わせて、その表現の様態を把握することが可能になるよう留意して授業を進めたい。

第1回：オリエンテーション  
 第2回：文明開化期の文学について  
 第3回：過渡期の文学について  
 第4回：写実小説について  
 第5回：浪漫主義文学について  
 第6回：硯友社の文学について  
 第7回：社会主義思想と文学について  
 第8回：自然主義文学について  
 第9回：反自然主義文学について  
 第10回：耽美派について  
 第11回：「白樺」派について  
 第12回：「奇蹟」派について  
 第13回：「新思潮」派について  
 第14回：明治作家の成熟について  
 第15回：ニヒリズムについて  
 第16回：私小説について  
 第17回：労働文学について  
 第18回：大衆文学の確立について  
 第19回：プロレタリア文学について  
 第20回：新感覚派について  
 第21回：新興芸術派について  
 第22回：転向と文芸復興ならびに日本浪漫派について  
 第23回：戦後文学の出発について  
 第24回：第一次戦後派と政治について  
 第25回：第二次戦後派と前衛について  
 第26回：第三の新人と家庭小説について  
 第27回：70年安保前後の時代について  
 第28回：「内向の世代」について  
 第29回：文学の現在について  
 第30回：総論的まとめ-文学史の構築について-

**履修上の留意点** 授業で触れる作品は、できるだけ多くを授業と並行して読むことが望まれる。また、特に詳しく取り上げる作品はあらかじめ知らせるので、事前に読んでおくこと。なお、他の学生の迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。

**成績評価の方法** 年度末の筆記試験の成績、課したレポートの内容、ならびに毎回の講義の出席状況を総合して成績評価を行う。

**教科書／テキスト** 「現代日本文学史」(笠間書院)1,800円  
 適宜プリントも配布する。

**参考書** 授業時に指示する。

履修コード	013601 013602
科目名	国文学史II B (近現代) 国文学史II (近現代)
担当者名	松田 直行

**講義の到達目標(ねらい)** 日本近代文学史を、演劇・映画・音楽などの表現とともに総体としての芸能文化史の中に位置づけ、「メディアの中の文学」を考える。明治維新から昭和10年頃までを対象として特に近代演劇史に注目し、テキスト論ではなくパフォーマンス論の立場から、近代の「もの見かた」が形成される歴史的過程を明らかにすることを旨とし、「もう一つの近代文学史」。

**講義の内容／授業スケジュール** (1-2)「近代」とは何か (3-4)メディアと文学 / 前近代の文学世界 (5-6)歌舞伎開化と演劇改良 (7-8)自由民権運動と壮士劇 (9-10)硯友社文学と新派劇「婦系図」 (11-12)複製芸術とメディア-映画とレコード (13-14)大衆小説から映画へ (15-16)リアリズムと「新劇」 (17-18)帝国劇場と女優の誕生 (19-20)帝劇・三越・宝塚-近代の視線 (21-22)近代浅草の芸能空間 (23-24)川端康成『浅草紅団』を読む-震災後の浅草 (25-26)エノケンとモダニズム映画 (27-28)大正戯曲時代と岸田国士 (29-30)大衆消費社会とプロレタリア

**準備学習** 大学入試の国語で問われる程度の基本的な文学史の知識はあるものとして話をすすめるので、自信がない場合は高校の国語の授業で使った国語便覧などで、近代文学史の概要を復習しておくこと。

**履修上の留意点** 授業はPC教場ではない一般教場で行うが、授業内容に関連した「選択課題」をYeStudy (e-Learningシステム)で出題するので、各自PCでコース登録をすることがある。年に3回ある課題提出を1度でも提出できなければ、その時点で単位取得はできなくなる。YeStudyのコース登録に必要となる「登録キー」は、授業で伝達する。授業で戯曲を講読する際は、グループを編成して役を振りあて、台詞をそれぞれ音読していただく。

**成績評価の方法** ほぼ毎回の授業で課す提出物による評価が20%、前期末と学年末の定期試験期間中に実施する筆記試験の合計点による評価が40%、YeStudyを使用した選択課題提出による評価が40%として配点する。出席が2/3に満たない場合や、選択課題の提出が定められた基準に達しない場合は、単位を取得できない。

**教科書／テキスト** 指定しない。

履修コード	015301
科目名	国文学特講I
担当者名	兼岡 理恵

講義の到達目標(ねらい)	風土記をひもとく 今から約1300年前に編纂された日本最古の地誌、風土記。その内容は、土地の産物、古来からの伝承、地名の由来など、「土地」にまつわる多様な記事にあふれている。 本講義では風土記のテキストをよむと同時に、その伝来状況を考える。さらに後世の歌枕、紀行文、地誌なども参考にしつつ、風土記、そして「風土」というものを考えていきたい。
講義の内容／授業スケジュール	現存する風土記を順次取り上げ、その内容・伝来・後世における受容など、様々な角度から「風土記」という文献の在り方を考察していく。 第1～3回：風土記とは・地誌とは 第4～9回：常陸国風土記 第10～14回：播磨国風土記 第15回：前半のまとめ 第16～20回：出雲国風土記 第21～24回：豊後・肥前国風土記 第25～29回：風土記逸文 第30回：まとめ
履修上の留意点	この講義を契機に、古代、そして自分にゆかりの土地への関心を高めて欲しい。
成績評価の方法	毎回書いてもらう感想、簡単なレポート（年1～2回）、学期末試験による総合評価
教科書／テキスト	プリントを使用。
参考書	講義中に適宜紹介する。
その他	自分の目で実際に見て、気づくことは数多い。 足腰の強さは知力の強さに繋がるはず。フットワークの軽さを大切に！

履修コード	016201
科目名	国文学特講X
担当者名	牧野 節子

講義の到達目標(ねらい)	数々の優れた芸術作品から創作の技術を学び、ものを見る目、ものを書く目を養い、想像力、創造力、文章力を高めることを目標とする。 童話、児童文学、小説、戯曲、映画などのさまざまな作品を鑑賞し、創作をする上での表現力、描写力、構成ほか、ベースとなるテクニックを習得していく。 また、それらを活用して、短編を完成させる。 書く楽しさ、創作のおもしろさを、受講生みんなが獲得できるようにしたい。
講義の内容／授業スケジュール	(1)(2)人称と視点 (3)(4)発想と材料 (5)(6)登場人物と背景 (7)(8)タイトルと物語のカラー (9)(10)構成を考える (11)(12)展開法・帰納法・伏線 (13)(14)小道具の活用法 (15)前期まとめ (16)(17)比喩・擬人法 (18)(19)テーマについて (20)(21)パロディとオマージュ (22)(23)日記形式・手紙形式の作品 (24)(25)絵や楽曲をヒントに (26)(27)物語のなかの明と暗 (28)(29)連作の書き方 (30)後期まとめ
準備学習	前回の授業内容の復習。
履修上の留意点	これまで一度も童話や小説を書いた経験がない人でもかまわない。この時間では、文章の書き方のABCから始め、創作の書き方に進んでいく。
成績評価の方法	出席状況30%。授業中に時々、その場で書ける短い課題を出すので、その提出状況が30%。前期末と後期末に1回ずつ提出の創作作品40%。以上の割合で評価する。
教科書／テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
その他	この授業は人数制限がある。受講希望者がその数を超えた場合は、第一日目の授業で受講者を決定する。そのため受講希望者はかならず第一日目の時間に出席すること。

履修コード	016301
科目名	国文学特講XI
担当者名	榎本 正樹

講義の到達目標(ねらい)	サブカルチャーの枠を超え、独自の表現形へと進化・深化し続ける日本のマンガとアニメを解釈するためのさまざまな方法を学びます。
講義の内容／授業スケジュール	前期はアニメ、後期はマンガについて講じます。 前期は宮崎駿監督の主要作品を論じます。 まず最初に、宮崎が大きな影響を受けたとされる、フランスのアニメ監督ポール・グリモーの『王と鳥』を鑑賞し、精緻な分析を行い、宮崎作品を成立させる基本的なアニメーションの「文法」を確認します。その後、宮崎初監督作品である『未来少年コナン』を出発点に、『ルパン三世カリオストロの城』『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『魔女の宅急便』『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』『崖の上のポニョ』等の主要作品について、発表順に作品論を展開し、「宮崎駿の世界」にアプローチしていきます。今年度は、昨年公開され宮崎が企画・脚本を担当した『借りぐらしのアリエッティ』についても論じる予定です。半年という時間的な問題があるため、上記宮崎監督作品リストから、一部の作品をとりあげる形になります。  後期はマンガ論を展開します。マンガには、画像論、表現論、物語論、記号論、メディア論、ジェンダー論、ジャンル論、作家論、読者論、流通論など多様なアプローチが可能です。本講義では、「記号と表象の集積体としてのマンガを回読するための理論の構築と実践」を目指します。
準備学習	前期にとりあげる宮崎の諸作品については、事前に鑑賞しておくことが望ましいです。後期に関しては、準備学習は必要ありません。
履修上の留意点	マンガやアニメだけでなく、文学やサブカルチャーや周辺ジャンルに興味をもつ学生の履修を歓迎します。
成績評価の方法	学年末提出のレポートの評価をメインに、出席点を加味し評価します。レポートのテーマや内容、分量等については、第一日目の授業時にお話します。
教科書／テキスト	前期・後期とも、資料はプリントで配付します。後期は、四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫）や夏目房之介『マンガはなぜ面白いのか その表現と文法』（NHKライブラリー）などを参考に授業を進めますが、購入する必要はありません。
参考書	参考文献等は教室で指示します。
その他	講義形式をとります。履修に際しては、榎本のプロフィールや研究業績が掲載されているサイト ( <a href="http://enmt.jp">http://enmt.jp</a> ) も参考にしてください。
関連リンク	<a href="http://enmt.jp">http://enmt.jp</a>

履修コード	015401
科目名	国文学特講II
担当者名	渡部 泰明
講義の到達目標(ねらい)	和歌がワカラナイ、古典の中でも和歌はとくに難しい、という若い人の嘆きをしばしば耳にします。和歌はどう読んだらよいのでしょうか。どういうものだと考えたらよいのでしょうか。万葉集から近世の和歌まで幅広く取り上げ、和歌特有の技巧である枕詞・序詞・掛詞・縁語・見立て・本歌取りや、贈答歌・屏風歌・歌合・人麻呂影供・古今伝授など和歌独特の催しごとの実態と意味を考えながら、いったい和歌とはそもそも何なのか、「ああ良かった」と思ってもらえるように講義してみたいと思います。
講義の内容／授業スケジュール	(1～2) 和歌概説…和歌は演技である。(3～17) 和歌のレトリックとはどういう働きをするのか…枕詞・序詞・掛詞・縁語・見立て・本歌取り。(18～28) 贈答歌・屏風歌・歌合・人麻呂影供・古今伝授の実態と意義。(29～30) 和歌の作者はどこにいるか。
成績評価の方法	前期および後期の最終授業日における論述形式の筆記試験を中心とし、出席状況も加味します。
教科書／テキスト	渡部泰明『和歌とは何か』(岩波書店、2009)

履修コード	015501
科目名	国文学特講III
担当者名	渡部 泰明
講義の到達目標(ねらい)	受講生の皆さんに、実際に演技や戯曲作成をしてもらいながら、日本の古来の言葉が、どのように現在に生かすことができるか、実体感してもらおう授業です。プロの演劇家によるワークショップ形式の演技体験など(3回)も含め、最終的に皆さん自身の力で、古典文学作品の上演をしてもらいます。
講義の内容／授業スケジュール	(1～4) 現代の演劇への視角…夢の遊眠社野田秀樹氏の演劇空間。(5～7) NODA・MAP高都幸男氏によるワークショップ。(8～12) 現代戯曲の構造の分析…『桜の森の満開の下』などを例に。(13～20) 古典文学の戯曲化の方法と実際。(21～30) グループに分かれての演劇製作および上演。
履修上の留意点	過去の演技体験の有無はまったく問いません。これまでの受講者の多くが演劇未経験者でした。ただし出席が重要となります。
成績評価の方法	出席状況を中心として、上演によって評価します。
教科書／テキスト	とくにありません。

履修コード	015601
科目名	国文学特講IV
担当者名	三澤 裕子
講義の到達目標(ねらい)	この講義の到達目標は、中世末期に隆盛を極めた幸若舞の芸能史上の位置、文学的価値を理解することである。幸若舞の典拠と目される軍記物語や能との関係、さらに、古浄瑠璃や歌舞伎などへの変容の様相についても言及したい。
講義の内容／授業スケジュール	以下の内容を実際の授業日数に配分して講義する。 第1回イントロダクション：幸若舞研究史 第2～5回幸若舞の歴史：曲舞から幸若舞への変遷 第6～10回幸若舞曲の構造：定型作品の分析 第11～15回幸若舞曲の方法：登場人物の造型 第16～22回幸若舞曲の典拠：軍記物語との関係 第23～29回幸若舞と周辺芸能：能・古浄瑠璃・歌舞伎への変容 第30回総括：幸若舞研究の展望
準備学習	配付プリントを事前に読んでおくこと。
成績評価の方法	出席とレポート(前期末・後期末にそれぞれ提出)による総合評価。評価に占めるレポートの割合は70%とする。
教科書／テキスト	授業時にプリントを配付する。
参考書	使用しない。授業時に紹介する。
その他	講義形式。

履修コード	015701
科目名	国文学特講V
担当者名	佐藤 武光

講義の到達目標(ねらい)	<p>かつて映画が、多くの国において、戦争の道具（いわゆる戦意高揚）として使われたように、人間に及ぼす、映像の影響力は、計り知れない、現代においても、映像戦略の影響一つで、流行が作られ、世論が形成されるのも事実である。</p> <p>現代の最大の権力者は、マスメディアであり、映画、TVの映像であるとも言われる。タレント議員の続出など一例といえる、しかし誰でも、その映像を行使できる立場にいることも事実である。</p> <p>だからこそ今最も必要とされるのが、シネマリテラシー、いわゆる映像を読み解く能力である。我々は、大新聞各社、TVキー局の流す情報を盲目的に、信じては、いないだろうか。</p> <p>現代に生きる今こそ、映像批評力を、磨かなければ、時代を、生き抜けないとも言える。本講座の主目的は、そこにある。</p> <p>今、映画は、まったく新しい方向に動き出している、利益追求の商業映画だけでなく、</p> <p>映画制作は、教育のツールとして、子供たちのやり場のない感情のはげぐちとして、はたまた、シニア世代の生きがいとして、等、</p> <p>映像の役割は、大きく変化している。事実、オーストラリアでは、義務教育に映画製作が導入され、民族、宗教、文化の違いを乗り越える教育に成功している、</p> <p>日本では、東京都教育委員会、BUMB東京スポーツ館が主催で毎夏行われ、川崎、岩手、福島、新潟、筑波、等において中学生の映画作りで参画、協働、共汗、共創の点で成果を上げ、イジメなどが、激減してる報告もある。</p> <p>映像表現は、もはや、プロだけの表現手段ではなくなった、今や映画作りにおいて、若者の精神を高揚させたり、クリエイティブな自己啓発などにより、文化状況を、自分たちで作り出していく存在に変化している。</p> <p>そこで本講座は、時代に、影響を与えた映画、小津、黒澤、今村などの名作を考察し、また、学生映画、中学生映画なども考察し、</p>
--------------	--

講義の内容／ 授業スケジュール	<p>「人間の中での 視点の違い」を意識し 貴重な同時代の財産を、共有したい。総じて、創造的映画批評力を、蓄え、人間力の向上を目指します。</p> <p>1、視点の違う作家たち イ、小津安二郎の世界 ロ、黒澤明の世界 ハ、今村昌平の世界 ニ、学生映画の世界 ホ、ジュニアワーク ショップ（中学生映画の世界） 2、メディアリテラシー及びシネマリテラシーの考察 3、新しい映画ビジネス、映画ファンドの考察 4、シナリオ創作演習 イ、十本企画（何を書きたいか） ロ、テーマ（誰のために作るのか） ハ、時代は何を求めているのか ニ、作家性 5、シナリオワークショップ、名作シナリオの、実践的分析</p>
--------------------	---

準備学習	日々の、氾濫する映像を、意識して、何故今その作品が作られているのかを考えること。
履修上の留意点	日常生活の映像が、何を目的に作られているかを考えながら映像感覚を磨く。
成績評価の方法	作品上映後のレポート提出及び後期末提出シナリオ作品（200字30枚以上）で評価する。
教科書／テキスト	特にありません。
参考書	参考書、参考文献は、講義の中で紹介します。
その他	基本的に講義が中心だが、作品上映後などで、ディスカッション中心の授業にしたい。

履修コード	015801
科目名	国文学特講VI
担当者名	津島 知明

講義の到達目標(ねらい)	清少納言の『枕草子』を精読しながら、古典文学を読むにあたっての様々な問題を考えてゆきます。
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>初回はガイダンス。以下、第二回から第四回までは、本文の異同、諸本の問題など、古典研究に必要な基礎知識から、時代背景、享受と研究の歴史、現時点での課題や問題点を概説します。</p> <p>第五回以後は、日記回想段と呼ばれる部分を中心に本文を読み進めて行きます。年表や系図などを参照しながら、ひとつひとつの表現に立ち止まり、『枕草子』の世界を再構築して行ければと思います。また、随時「写本」に触れる機会も作ってゆく予定です。</p> <p>最終回にはまとめのレポートを課します。</p>
成績評価の方法	平常点（授業時の課題を含む出席状況、夏期レポート、授業時テストから総合的に評価）
教科書／テキスト	『新編 枕草子』（おうふう）
参考書	津島知明『動態としての枕草子』（おうふう） 津島知明『ウェイリーと読む枕草子』（鼎書房） その他、授業時に指示する。
その他	講義形式。ただし、理解度や疑問点の有無などを折々確認しながら進めて行く。

履修コード	015901
科目名	国文学特講VII
担当者名	竹内 正彦

講義の到達目標(ねらい)	平安時代の歌物語である伊勢物語を対象とし、その表現世界のありようをとらえることを目標とする。伊勢物語が源氏物語をはじめとした後の文学に与えた影響ははかり知れず、現代に至ってもその魅力は色あせることはない。ひとつひとつのこぼれを丹念に追いつきながら読み深め、受講生とともにその魅力を感受していきたい。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：伊勢物語概説、第2回～4回：初冠章段、第5回～8回：二条后関係章段、第9回～12回：東下り章段、第13回～15回：東国章段、第16回～17回：筒井筒章段、第18回～21回：斎宮関係章段、第22回～23回：惟喬親王関係章段、第24回～30回：伊勢物語の諸相
準備学習	各授業時に予定されている章段について、自身で読み、解釈を試みるのが効果的な準備学習となります。
履修上の留意点	講義形式による授業ですので、各自それぞれの関心をもって授業に臨んでください。
成績評価の方法	学期末試験80%、出席状況などの平常点20%。
教科書／テキスト	永井和子訳・注『伊勢物語』（笠間文庫・原文&現代語訳シリーズ）笠間書院、980円
参考書	授業時に適宜指示する。

履修コード	016001
科目名	国文学特講VIII
担当者名	閻 小妹

講義の到達目標(ねらい)	この講義の到達目標は、江戸時代における日中文化交流によって生まれた読本の魅力を感じさせ、学生の近世小説、特に読本についての読解力を高めることである。授業では中国の怪談小説、白話小説の具体的な作品と時代背景を説明しながら、日本の翻案作と比較し、両者の相違について解説を行う。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：読本の成立と中国小説（文言小説と白話小説） 第2～5回：中国怪異小説の翻訳から 中国白話小説の翻案へ 第6～9回：初期読本都賀庭鐘著『英草紙』第2編「馬場求馬妻を沈めて樋口が聳と成る話」、『繁野話』第8話「江口の遊女薄情を憤りて珠玉を沈る話」と中国白話短編小説集「三言二拍」 第10～12回：上田秋成著『雨月物語』巻2「浅茅が宿」と中国怪談短編小説集『剪灯新話』 第13～15回：『雨月物語』巻4「蛇性の姪」と中国の白蛇伝説 第16～19回：江戸読本、山東京伝著『桜姫全伝曙草紙』と中国白話長編小説『金雲翹伝』 第20～24回：『水滸伝』の世界 第25～28回：後期読本の長編化
準備学習	授業する前に指定される作品を一度読んでおくことを要求する。わからないところがあっても、飛ばして物語の筋を追って最後まで読むことを勧める。授業中で作品の内容を纏めて発表したり書いたりしてもらおうことがしばしばあるので。
履修上の留意点	授業中で配布された資料を読んでおくこと、質問を用意しておくこと。
成績評価の方法	期末試験（5割）、授業内での課題（5割）を基本とする。出席受講態度も大いに勘案する。なお、全期を通じてレポート課題は5回程度。
教科書／テキスト	授業の時資料を適時に渡す
参考書	小学館刊『日本古典文学全集78 英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』 岩波書店刊『新日本古典文学大系 80 繁野話 曲亭伝奇花紋児 惟馬楽奇談 鳥辺山調絃』

履修コード	016101
科目名	国文学特講IX
担当者名	倉田 容子

講義の到達目標(ねらい)	明治文学における女性像の検討を通して、多様な「読み」の方法を体得しつつ、現代社会に通じるジェンダー／セクシュアリティ規範の萌芽を見据え、文学と現実社会との連関性について認識を深める。
講義の内容／授業スケジュール	前期は男性文学を、後期は女性文学を扱う予定です。書き手のジェンダー偏差の問題を視野に入れつつ、それぞれのテキストの女性をめぐる語りや構造にアプローチしていきます。同時に、国家による女性の性の管理、「家」制度、女性労働、ナショナリズムと老いなどの問題など、テキストに現れたいくつかの問題系について検討し、明治期の女性を取り巻く社会状況について知識を深めます。  第1回：ガイダンス——フェミニズム批評入門 第2回～第4回：広津柳浪『今戸心中』 第5回～第7回：徳富蘆花『不如帰』 第8回～第10回：夏目漱石『坊っちゃん』 第11回～第14回：田山花袋『生』 第15回：前期のまとめ 第16回：女性文学概論 第17回～第19回：樋口一葉『にごりえ』 第20回～第22回：清水紫琴『こわれ指環』 第23回～第25回：田村とし子『生血』 第26回～第29回：岡本かの子『老妓抄』 第30回：後期のまとめ
準備学習	授業で扱うテキストを事前に読んできてください。『今戸心中』『不如帰』『坊っちゃん』『にごりえ』『こわれ指環』『老妓抄』は、青空文庫[http://www.aozora.gr.jp/]で読むことができます。『生血』はコピーを配布しますが、入手困難な場合は、概要および冒頭のコピーを配布する予定です。
履修上の留意点	積極的な姿勢での受講を望みます。授業後の質問を歓迎します。
成績評価の方法	レポート（学期末提出）80%、授業内での課題20%。出席状況も勘案します。
教科書／テキスト	指定しません。授業中に随時プリントを配付します。
参考書	授業内で適宜指示します。

履修コード	016901
科目名	児童文学
担当者名	牧野 節子

講義の到達目標(ねらい)	児童文学の古今の名作の魅力にせまる。 児童文学とはどんなものか、どんなジャンルがあるか、どんな作品が書かれてきたか、いろいろな作品にふれるとともに、児童文学の変遷についても学ぶ。 また、映画化された作品の鑑賞や、パロディの考察など、さまざまな切り口から、原作のおもしろさを探っていく。 児童文学の楽しさ、奥深さを知り、児童文学の未来、今後の可能性についても考えてほしい。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)(2) 児童文学とは何か (3)(4) ジャンルとグレード (5)(6) 時代背景と主人公 (7)(8) 絵本 (9)(10) ファンタジー (11)(12) ヤングアダルト (13)(14) ノンフィクション (15) 前期まとめ (16)(17) ルーマー・ゴッデン (18)(19)(20) 小川未明・宮沢賢治・新美南吉 (21)(22) ロアルド・ダール (23)(24) 武井武雄・佐野洋子 (25)(26) J・K・ローリング ジャクリン・ウィルソン (27)(28)(29) 江國香織・森絵都・あさのあつこ (30) 後期まとめ
準備学習	前回の授業内容の復習。
履修上の留意点	授業で紹介する作品を多く読むこと。
成績評価の方法	出席状況30%。授業中に時々、その場で書ける短い課題を出すので、その提出状況が30%。前期末と後期末に1回ずつ提出のレポートが40%。以上の割合で評価する。
教科書／テキスト	なし
参考書	なし

履修コード	014101
科目名	上代文学研究I
担当者名	中嶋 真也

講義の到達目標(ねらい)	現存最古の歌集『万葉集』には4500首ほどの歌が存在します。そのうち、恋愛関係を基本とする歌を集める「相聞」や「譬喩歌」といった部に1900首ほどが収められています。その他、亡き人への追慕の念も恋歌に通ずるといえ、『万葉集』は恋歌の宝庫といえる歌集です。 恋歌を考える上で、最も鍵を握ることばは「恋」ということばです。漢字文献『万葉集』では「孤悲」とも記されるように、孤独な悲しい思いを示すことばであったのです。そのような満たされぬ思いを歌に託しつつ、必ずしも悲壮感のみ漂うわけではない『万葉集』の恋歌の世界を理解していくことを目標とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	『万葉集』全体理解を優先させつつ、具体的な景物を詠む歌々の読解を重点的に行います。 第1回 カイダンス、第2回 『万葉集』概説、第3～5回 「恋」ということば、第6～8回 桜と恋、第9～11回 かすみと恋、第12～14回 雨と恋、第15回 前期まとめ 第16回 前期の復習と後期の課題確認、第17～19回 風と恋、第20～22回 露と恋、第23～25回 雪と恋、第26～29回 恋と死、第30回 後期まとめ 以上はあくまでも予定で、『万葉集』の恋歌を深く理解するために掘り下げるべき課題は随時、時間をかけて探求していきます。
準備学習	通年の授業ですので、積み重ねが大きな意味を持ちます。授業の復習が以降の授業の最善の準備学習となります。
履修上の留意点	日本古典の持つ面白みと真剣な側面を感受してほしいと思います。毎回テキストを忘れずに持ってくること。
成績評価の方法	学期末の試験(90%)、授業の出席状況ならびに授業態度(10%)。
教科書／テキスト	井手至・毛利正守『新校注 萬葉集』(和泉書院 2008) 必要に応じて、プリントも配布します。
参考書	必要に応じて、授業中に指示します。
その他	特になし。

履修コード	017401
科目名	書道概論
担当者名	金子 大蔵

講義の到達目標(ねらい)	中国・日本の書道史を学び、また現代書の誕生と歴史、現況を研究し、書の意義や芸術性に対する知識と理解を高める。 講義内容は主に書道理論と、ビデオや拓本、複製品などを使っての名品や現代書の鑑賞である。 前期では主に、中国書道史の概要を学ぶ。最古の文字「甲骨文」から「金文」、「木簡」へと移行する古代文字の変遷と、書の芸術性を高めたといわれる書聖王羲之の書と人の研究。 後期では主に、日本書道史と現代書の概要を学ぶ。書が中国から日本へと伝来してきた背景と経緯、そして“現代書の父”といわれる比田井天来から現在の現代書7部門までを理解し、実際に数回、書の展覧会を見てレポートを提出する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期 (1) 書とは? (2・3) 甲骨文について (4・5) 金文について (6・7) 簡牘について (8・9) 漢代の隷書について (10・11・12) 王羲之の書と人について (13・14・15) 北魏の楷書について 後期 (16・17) 初唐の三大書家について (18・19) 顔真卿の書と人について (20～22) 日本書道史について (23・24) 現代書の父比田井天来について (25・26・27) 上田桑鳩、金子鳴亭など現代書を広めた書家について (28・29・30) 現代書7部門と今後の書の展開
履修上の留意点	講義では主に頭から入る知識を学ぶが、平日頃から展覧会や博物館等に足を運び、目で親しむ時間をつくるのが望まれる。
成績評価の方法	年数回行う展覧会等のレポート提出の内容と、講義中に行う小テストの結果に依拠して行う。
教科書／テキスト	『書II』高等学校芸術科(書道)文部科学省検定済教科書(光村図書出版)

履修コード	017301 017302
科目名	書道史
担当者名	那須 隆吉

**講義の到達目標(ねらい)** 東洋文化は今、世界の注目を集めている。中でも書道は文字を芸術にまで高めた特異な文化である。本講では、書道が古代よりいかなる変遷をたどってきたかを通覧し、東洋独自の文化への理解が深まるよう、出来るだけ分かりやすく講じたい。

**講義の内容／授業スケジュール**

前期 (1) ガイダンス (文字と書体について)  
(2) 漢字の発生 (甲骨文字の発見)  
(3) (4) 甲骨文字の内容・解説・書風の変遷  
(5) (6) (7) 青銅器の文字、金文について  
" の銘文の内容、解説、書風  
(8) (9) 篆書の時代 (始皇帝の文字統一)  
(10) (11) (12) 隷書のはじまり  
(13) 最古の文字の解説書「説文解字」について  
(14) (15) 草書の完成  
後期 (16) (17) (18) 魏晋南北朝時代の文字について  
(19) (20) 隋の統一と楷書の発展  
(21) (22) (23) 唐の書法  
(24) 宋の書法  
(25) (26) 元の書法  
(27) (28) 明の書法  
(29) (30) 清の書法

**履修上の留意点** 遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

**成績評価の方法** 出席及び随時レポートの提出、年度末に行なう筆記試験等を総合して評価する。

**教科書／テキスト** 伏見冲敬著『書の歴史』 (二玄社)

**参考書** 随時紹介する。

履修コード	017501
科目名	書道実習I
担当者名	金子 大蔵

**講義の到達目標(ねらい)** 書道とはただ文字をきれいに書き写すというだけではない。中国、日本における古代からの名品といわれる古典の臨書を重ねることにより、パソコンやワープロでは表現することができない書き手の心や顔が見ることが出来る書表現を身につける。

本講座では主に書の基本ともいえる楷書と行書の古典を中心に半紙を使って学び、それにより多彩な線表現を会得し、独自の臨書感を持って書に取り組めるようにする。また最後に漢字仮名交じりの書を学ぶことにより、我々が今現在使用している言葉を用いた書表現にも挑戦する。

前期では主に楷書の臨書を行う。「高貞碑」等の北魏の楷書から、「九成宮醴泉銘」等の唐の楷書まで幅広く学ぶ。後期では書聖王羲之の最高傑作「蘭亭序」や唐代能書家の名品、日本の空海書「風信帖」まで古今東西の古典を学ぶ。最後3回の講義にて漢字仮名交じり書の作品を学ぶ。

**講義の内容／授業スケジュール**

前期・楷書の研究 (1) 用具・用材の説明と臨書について (2・3) 高貞碑の臨書  
(4・5) 牛橛造像記の臨書 (6・7) 孔子廟堂碑の臨書 (8・9) 九成宮醴泉銘の臨書 (10・11・12)  
雁塔聖教序の臨書 (13・14・15) 顔氏家廟碑の臨書  
後期・行書の研究と漢字仮名交じりの書 (16~18) 蘭亭序の臨書  
(19) 集王聖教序の臨書 (20・21) 枯樹賦の臨書 (22・23) 祭姪文稿の臨書 (24・25・  
26) 風信帖の臨書 (27~30) 漢字仮名交じりの書

**履修上の留意点** 書道の上達は筆を持つ時間の長さにとらえられがちです。予習復習以外にも日頃から筆を持つ機会を多くすることが大切です。

**成績評価の方法** 毎講座後に提出する作品の内容の評価と夏休みの宿題の内容の評価を総合判断して行う。

**教科書／テキスト** 『書I』 高等学校芸術科 (書道) 文部科学省検定済教科書 (光村図書出版)

履修コード	017601
科目名	書道実習II
担当者名	那須 隆吉

**講義の到達目標(ねらい)** 世界で唯一、古代から一貫して同じ文字を使用し、それを鑑賞に耐えうる芸術にまで高めた「書」の美しさを味わいたい。書道の用具用材の取り扱い等基礎的知識を理解し、基本点画から始め古典の臨書に至るまで学ぶ。

**講義の内容／授業スケジュール**

前期 (1) 用具用材の種類とその取り扱い方 (文房四宝について)  
(2) (3) 楷書の基本点画 (横画縦画、起送収筆折れ曲がり右払い左払い等)  
(4) (5) 二文字を書く  
(6) (7) 四文字を書く  
(8) 五文字を書く  
(9) 六文字を書く  
(10) 行書の基本について  
(11) 二文字を書く  
(12) (13) 四文字を書く  
(14) 五文字を書く  
(15) 六文字を書く  
後期 (16) 草書の基本について  
(17) 二文字を書く  
(18) 四文字を書く  
(19) 片仮名  
(20) (21) (22) 平仮名  
(23) (24) 漢字仮名まじり文  
(25) 硬筆  
(26) (27) 封筒、手紙、年賀状  
(28) (29) 色紙、短冊の書式  
(30) 賞状、式次第、立看板

**履修上の留意点** テキスト、用具は常に整備しておく。(墨汁は使用しない。硯、筆は常に洗っておく。)

**成績評価の方法** 出席点、平常点 (遅刻等)、清書、レポート等による。

**教科書／テキスト** 大学書写書道教育 (第一法規)

履修コード	017701
科目名	書道実習III
担当者名	那須 隆吉

講義の到達目標(ねらい)	一口に書道といっても多様なジャンルがある。本講では、隷書法、篆書法、篆刻法を実習する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期 (1) 隷書について (2) 隷書の書法 (3)～(7) 臨書「曹全碑」 (8)～(10) “ 「禮器碑」 (11) 篆書について (12) 篆書の書法 (13)～(15) 臨書「吳讓之」の篆書 後期 (16)～(19) 臨書「吳讓之」の篆書 (20) 篆刻の用具用材と手順について (21) 篆刻について (22)～(30) 篆刻実習 (姓名印、吉語印等)
履修上の留意点	文房具を愛することは、古来文人のたしなみであるので、用具を忘れて人に借りるなどということのないよう注意されたい。
成績評価の方法	出席及び清書提出、随時レポートの提出等を総合して評価する。
教科書／テキスト	コピーによる。
参考書	随時紹介する。

履修コード	016701
科目名	西洋思想史
担当者名	河谷 淳

講義の到達目標(ねらい)	この授業では前期にはギリシア哲学(古代哲学)を扱い、後期以降は古代哲学の問題群が中世以降どのような形で継承され展開していったのかを存在論・認識論・倫理学からテーマを選んでたどっていくことにしたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1～2回:序論、第3～5回:ギリシア神話と哲学の始まり、第6～8回:ソクラテスの哲学、第9～12回:プラトンの哲学、第13～16回:アリストテレスの哲学、第17～19回:ヘレニズムの哲学、第20～22回:普遍論争(中世哲学)、第23～25回:大陸合理論とイギリス経験論(近代哲学)、第26～30回:現代倫理学とギリシア哲学
成績評価の方法	中間試験(前期最終授業日に実施)と期末試験(それぞれ40点満点)ならびに出席状況との総合点で評価する。

履修コード	016401 016402
科目名	中国文学 中国歴史文学
担当者名	田熊 信之

講義の到達目標(ねらい)	数千年にわたる中国の歴史の中で、政治や文化の中心的な担い手となった漢民族は、時には他の民族とも混滑を累ねながら、特異な漢字文化を生み育てて来ました。本講座では、こうした漢字文化の粋である各種の文学作品(新出遺文も含め)を選読し、中国の人々が築き上げた多様な文字表現の世界を省察しつつ、中国文学に対しての読解力と鑑賞力を養っていきたいと思います。
講義の内容／ 授業スケジュール	中国文学の世界には、例えば、歌謡や巫歌に由来する韻文の流れや、卜辞、告誓、記事などに始まる散文の流れがあり、このもとは、社会生活を営む人間それぞれの哀歓こもごもの姿が写し出されています。ここでは、各々の時代の思想、信仰等に彩られる、さまざまな形の文学のうち、歴史に関わる作品を適宜読み進めていきます。 〔前期〕 第1回:中国の風土と歴史、第2～3回:漢字の創造とその展開、第4～5回:文学の出現とその変遷、第6～8回:表現の歴史とその推移、第9～10回:『史記』巻九十七「陸賈列傳」(陸賈と劉邦)、第11～12回:『新語』抄文講読 同巻上「道基第一」、「述事第二」、第13回:同巻上「輔政第三」、第14～15回:同巻下「資質第七」、「本行第十」 〔後期〕 第16回:古都洛陽(雒邑から洛陽へ)、第17～18回:仏教東伝と白馬寺(『牟子』「理惑論」、『高僧傳』「譯經上」、『魏書』「釋老志」)、第19回:『洛陽伽藍記』と楊銜之、第20～22回:『洛陽伽藍記』講読(序)、第23～25回:同巻第一「城内」永寧寺条、第26～28回:同巻第一「城内」建中寺、長秋寺条、瑤光寺条等、第29回:同巻第三「城南」景明寺条等、第30回:同巻第四「城北」宋雲惠生使西域条
準備学習	中国の地理、風土、歴史等については、各自概説書や関連著作などを参看して、基礎知識を得て下さい。
履修上の留意点	各種の辞書の用い方に慣れておくことともに、幅広い視野をもつことを心がけて下さい。
成績評価の方法	評価は、受講の状況を重視しながら、課題等への対応のさま、レポート或いは試験等の結果を勘案し、総合的に行ないます。
教科書／テキスト	プリントを配布して、これをテキストとして使用します。
参考書	参考書、資料等については、授業時に説明し、紹介します。
その他	授業は、講義及び演習の両方式を混ぜて行ないます。
関連リンク	<a href="https://www.komazawa-u.ac.jp">https://www.komazawa-u.ac.jp</a>

履修コード	014301
科目名	中古文学研究I
担当者名	西本 香子

講義の到達目標(ねらい)	10世紀後半に成立した、日本最初の長編物語である『うつほ物語』の主題を解き明かすことをねらいとする。
講義の内容／ 授業スケジュール	『うつほ物語』は、『源氏物語』に大きな影響を与えた重要な作品であるにもかかわらず、伝本文の乱れという理由から長く研究の進展が阻まれていた。近年ようやく本文が整えられたものの、七絃琴を重要モチーフとするこの物語がどのような文化基盤の上に立って何を目的に書かれたものか、いぜんとして明確な見解は示されていない。この授業ではまず、古代の中国・朝鮮半島・日本といった東アジア諸国において、音楽や琴類が王権といかなる関わり合いを持っていたか、さらには天皇家が自らの統治にそれらをどのように利用したかを講義する。その上で物語本文を検討することによって、『うつほ物語』が礼楽思想による天皇家の理想的統治を志向した物語であることを明らかにしていく。
履修上の留意点	講義は毎回の授業が次回の内容の前提となる形で展開していく。なるべく欠席することなく結論までしっかりとついてきて欲しい。
成績評価の方法	出席と前期・後期試験による総合評価。出席50%、試験50%。
教科書／テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業時に紹介する。

(1~2)平安文学概論 (3~5)『うつほ物語』概論および研究史 (6~8)中国古代の思想と音楽 (9)中国の七絃琴  
(10)朝鮮半島の琴類 (11~12)日本上代文学にみる琴類  
(13)天皇家と七絃琴 (14~15)『うつほ物語』の生まれた時代 (16~21)3つの首巻(「俊蔭」「藤原の君」「忠こそ」と嵯峨天皇の時代 (22~23)俊蔭漂流譚と遣唐使 (24~25)『うつほ物語』の藤原氏排斥 (26~27)女性弾琴と男性弾琴 (28~30)予言実現と俊蔭女(七絃琴と巫女)

履修コード	014501
科目名	中世文学研究I
担当者名	渡邊 裕美子

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、『平家物語』(覚一本)の講読を中心としつつ、『平家物語』諸本あるいは周辺諸作品を読み合わせるにより、『平家物語』の特質や生成過程について理解することを目標とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回:『平家物語』の諸本と成立について 第2~4回:巻四「叡島御幸」「還御」と『叡島御幸記』 第5~7回:巻五「都遷」「月見」と『今物語』 第8~11回:巻六「小督」と『隆房集』 第12~15回:『平家公達草紙』と『安元御賀記』『建礼門院右京大夫集』 第16~18回:巻七「忠度都落」と『千載集』 第19~21回:巻七「維盛都落」と『建礼門院右京大夫集』 第22~24回:巻九「重衛生捕」、巻十「内裏女房」と『建礼門院右京大夫集』 第25~27回:巻十「維盛入水」と『建礼門院右京大夫集』 第28~30回:灌頂巻「大原御幸」と『建礼門院右京大夫集』『閑居友』
準備学習	配布したプリントを事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	特にありません。
成績評価の方法	期末試験70%、授業中に提出する小レポート30%
教科書／テキスト	プリント配布。
参考書	講義において必要に応じて指示します。

履修コード	016801 016802 016803
科目名	東洋思想史
担当者名	末木 恭彦

講義の到達目標(ねらい)	中国の伝統思想、特に儒教のあり様について理解を深めることを目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	直線的に歴史把握を行うのではなく、儒学の根本文獻(経)についての理解を深め、各経の歴史的展開を並行的に把握することとする。手掛りとしては、江戸時代の儒者荻生徂徠の『経史要覧』を用いる。『経史要覧』の言説を読み、それに現代の視点からの補説を行う。この作業を通じて、儒学の経とは何か理解を深めていく。 (1)ガイダンス(2)荻生徂徠について(3~5)経総論(6~9)詩・書(10~12)礼記・易(13)春秋(14~15)予備(16~18)論語・孝経(19)経まとめ(20~21)子総論(22~23)孟子(24)荀子(25~27)老荘列(28)子まとめ(29・30)質疑応答
履修上の留意点	予習をして来て欲しい。テキストの疑問点を整理して授業に臨んで欲しい。その疑問点の解明を中心として、授業を展開する予定である。
成績評価の方法	平常の受講態度と学年末レポートによる。(受講人数によっては、試験にすることもある。)追試はしない。
教科書／テキスト	『経史要覧』(コピーを配布する)
参考書	関口順『儒学のかたち』(東大出版会)

履修コード	021051
科目名	日本語文法入門
担当者名	土井 光祐

**講義の到達目標(ねらい)** (1) 「学校文法」に基づく古典文法の基礎。  
(2) 記述文法の基礎と古典語への応用。  
(3) 文法史の基礎。  
以上三つの視点から日本語文法の基礎を体系的に学習する。

**講義の内容／授業スケジュール** いわゆる「学校文法」は、様々な問題点が指摘されているが、古典解釈や文法史の拠り所として一定の役割を果たしてきた。既習であるはずの「学校文法」の知識が極端に不足していると、古典文学作品の基本的な読解は困難となる。  
又、日本語の仕組みと変遷とをより総合的、分析的に学ぶためには、「学校文法」の知識だけでは不十分な点もあり、近時深化の著しい記述文法の基礎的な学習が不可欠である。学校文法の基礎を学び、適宜最新の記述文法を紹介し、文法史へと発展していく。  
第1回～第2回：文法の意義、形態論と統語論、言語の単位  
第3回～第5回：品詞分類の原理、活用  
第6回～第10回：動詞、形容詞、形容動詞  
第11回～第14回：名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞  
第15回～第19回：助動詞  
第20回～：助詞、敬語論

**履修上の留意点** 欠席者に対して、当方は一切フォローしない。欠席時の配布プリントは他の出席者に借りてコピーする等、各自で対応すること。

**成績評価の方法** 出席状況、授業中に行う確認テスト、前期・後期の筆記試験の総合による。

**教科書／テキスト** 中村幸弘・高橋宏幸・基石雅利『正しく読める古典文法』駿台文庫、ISBN4-7961-1486-6

**参考書** 授業中に紹介する。

**その他** eラーニングシステムYeStudyを利用するので、ログイン方法を早めに確認すること。

履修コード	021061
科目名	日本語文法入門
担当者名	原 裕

**講義の到達目標(ねらい)** 日本語文法学に用いられる基本的概念を学ぶとともに、現代日本語文法、古典語文法の基本的事項を確認し、いくつかの個別的問題に関する発展的知識を身につける。更に、日本語文法の歴史の変遷の諸相や、近年の記述的文法研究に関する基本的な事柄について学習する。

**講義の内容／授業スケジュール** 【第1～6回】いわゆる学校文法、及び代表的な文法学説の大枠について紹介し文法学の基礎的概念についての知識を習得する。第7回講義以降は日本語の文法について、特に古典語を中心に学習する。学校文法の内容を再確認し、個別的事柄については、更に発展的な知識を身につける。【第7～12回】用言 【第13～21回】助動詞 【第22～26回】助詞 【第27～30回】特殊な構文や語法

**準備学習** 高校までに既習の日本語文法・古典語文法の基礎事項を再度確認しておくことが望ましい。プリントは前もって配布するので、次週学習部分に前もって目を通しておくことを勧める。

**履修上の留意点** 学習用の古語辞典を持参すること。

**成績評価の方法** 筆記試験の点数などを総合的に判断する。

**教科書／テキスト** プリントを配布する。

**参考書** 授業において随時紹介する。

履修コード	043711
科目名	日本史概説
担当者名	松本 信道 菅野 洋介 岩崎 孝和 浅倉 直美

**講義の到達目標(ねらい)** 日本の古代～近・現代の歴史的展開の過程を講述することにより、日本歴史への関心を高め、歴史学習の基礎を学び、次年度以降の専門科目をより深く理解するための一助とすることを目的とする。本講座では、それぞれの時代の政治・経済・文化などの諸様相について、関連史料の具体的な解釈を通じて概観したい。

**講義の内容／授業スケジュール** (1) ガイダンス (2) 日本国家の起源、(3) ヤマト政権の成立と展開、(4) 大化改新と古代国家の確立、(5) 律令国家の構造とその特質、(6) 奈良時代の政治と天平文化、(7) 平安王朝の成立とその文化、(8) 摂関政治の展開と貴族の生活(以上、松本信道担当)  
(9) 院政と平氏政権、(10) 鎌倉幕府の成立、(11) 執権政治と武士の社会、(12) 蒙古襲来と鎌倉幕府の滅亡、(13) 室町幕府の成立、(14) 惣村の形成と農業・手工業の発達、(15) 室町幕府の衰退と戦国大名(以上、浅倉直美担当)  
(16) 徳川政権の確立、(17) 近世の対外関係、(18) 近世村の世界①～各地の地方史料からの考察、(19) 近世村の世界②～各地の寺社史料からの考察、(20) 近世の思想と文化、(21) 近世の都市世界、(22) 転換する近世社会(以上、鈴木将典担当)  
(23) 幕末の動乱と明治維新、(24) 自由民権運動と明治憲法体制の成立、(25) 日本資本主義の成立と発展、(26) 近代文化の形成と発展、(27) 大正デモクラシーと第一次世界大戦、(28) ファシズムの台頭と第二次世界大戦、(29) 東西冷戦体制と戦後日本(以上、岩崎孝和担当)  
(30) まとめ

**履修上の留意点** 受動的でなく、主体的に学習してほしい。

**成績評価の方法** 各担当教員の授業期間内に小テストを4回実施し、それらの総合点で成績を評価する。

**その他** 授業の方法は講義形式で進める。

履修コード	047111 047112
科目名	日本文化史
担当者名	廣瀬 良弘

**講義の到達目標(ねらい)** 日本文化の歴史が、当時の社会の生産の仕組みや政治・経済・宗教などと深く関わりあったことに留意しながら、朝廷・公家・武家のみならず民衆が文化の創造に大きな役割を果たしていたことを明らかにしていきたいと思ひます。そして、この日本文化は現代においても、多くは底流として、また、ときには、「日本の代表的な文化」として、存在しています。現代の文化と対比しながら、検討していきたいと思ひます。

**講義の内容／授業スケジュール** 日本文化の流れを概観し、民衆の躍動やその文化が顕著になってくる中世の文化を中心にその前後の文化にも注目しながら、文化の様相と特色について見ていきます。  
 ・日本文化史概観、・中世文化史研究の動向(1, 2)、・鎌倉仏教と文化(3～5)、・禅宗と五山文化(6, 7)、・南北朝から室町期の文化(8, 9)、・北山文化の展開(10, 11)、・東山文化とその基盤(12～15)、・中世の職能民(16, 17)、・連歌師の旅(18, 19)、・戦国社会と宗教(18, 19)、・戦国社会の駈込寺(20～22)、・大名領国の文化(23, 24)、・統一政権とその文化(25, 26)、・近世文化史研究の動向と寛永文化(27～30)

**履修上の留意点** 講義の中に出てきた事項について、図書館の蔵書や辞書などで調べ直してみたり、現地に行ってみたりすることがあります。また、日本文化や歴史、宗教などをテーマとする博物館・美術館などの展示会を積極的に観覧し、できるかぎり「実物」に接する機会を持って下さい。受講する上では図書館所蔵の文化史・美術史に関する資料・ビデオ等を大いに活用することをすすめます。なお、本学の禅文化歴史博物館での文化史関連展示会の見学と学芸員による説明会を実施します。

**成績評価の方法** 定期試験の結果と授業の出欠を重視します。定期試験では一般論を回答しても正解とならないことが多いので注意して下さい。つまり授業に出席し、しっかりとしたノートができていないと合格点は取れません。

**教科書／テキスト** とくに指定しません。必要な資料は随時コピーを配布します。

**参考書** 講義内容に関する博物館・研究所などを随時提示して行きます。

履修コード	017101 017102 017103
科目名	日本民俗学
担当者名	牧野 眞一

**講義の到達目標(ねらい)** 日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して、日本社会に展開する生活文化を追究する学問である。地域社会に伝承されてきた民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していきたい。

**講義の内容／授業スケジュール** (1～2) 民俗学の多様性 (3～5) 民俗学の流れと現在 (6～7) 家族生活と住まい (8～9) 食をめぐる民俗 (10～11) 村と町のなりたち (12～13) 若者と一人前 (14～15) 婚姻と出産・子育ての民俗 (16～17) 女性・子ども・老人の民俗 (18～20) 葬送儀礼と先祖祭祀 (21～22) 里と海・山のなりわい (23～25) 祭りと年中行事 (26～28) 民俗宗教の諸相 (29～30) 北海道民俗・沖縄民俗の特徴

**履修上の留意点** 夏期レポート及び小レポートを実施する予定。

**成績評価の方法** 学年末に実施する筆記試験、それに夏期レポートと小レポートの合計をもって評価を行う。出席を重視する。

**教科書／テキスト** 谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義-生活文化へのアプローチ-』2006年刊(八千代出版) 2,100円(税込)、ISBN 4-8429-1405-X

**参考書** 講義内容を発展させるための参考文献は講義の中で紹介していきたい。

履修コード	017001
科目名	比較文学
担当者名	内藤 まりこ

**講義の到達目標(ねらい)** 比較という営為は、今日、諸分野の研究における対象分析の方法として積極的に採用されており、この方法を掲げる文学研究は、「比較文学研究」と呼ばれる。では、比較の方法は、私たちにどのような新しい視野をもたらすのだろうか。本授業では、これまで行われてきた比較文学研究の方法を学習し、文学や映画、舞台芸術などの作品を比較することで、どのようなことがわかるのかを理解する。

**講義の内容／授業スケジュール** 本講義では、まず、比較文学研究がどのような比較の方法を展開してきたのかを学び、比較という方法が抱える問題点と可能性を把握する。次に、文学や映画、舞台芸術などの作品を取り上げ、分析を行うなかで、比較文学の方法を実践する。受講者は、授業で学んだことを踏まえ、学期末レポートにおいて、自らが選んだ文学作品を比較文学の視点から論じることになる。

**成績評価の方法** 出席、学期末テスト(夏学期)、学期末レポート(冬学期)による。

**教科書／テキスト** コピーを配布する。

**参考書** 授業中に指示する。

履修コード	017801 017802 017803
科目名	美術史概説
担当者名	北野 良枝

講義の到達目標(ねらい)	日本絵画の流れを主要なジャンルや流派ごとに概観する。美術の歴史を理解するにあたって、常に作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期 平安時代から室町時代の絵画 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識 (3) ～ (5) 仏教絵画 (6) ～ (8) 絵巻物 (9) ～ (10) 肖像画 (11) ～ (15) 室町時代の水墨画 後期 室町末から江戸時代の絵画 (16) ～ (20) 狩野派 (21) ～ (24) 琳派 (25) ～ (26) 浮世絵 (27) ～ (28) 南蘋派と洋風画 (29) ～ (30) 江戸から明治へ
履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。
成績評価の方法	学年末に筆記試験を実施し、その得点によって評価する。

履修コード	017201 017202
科目名	編集実務
担当者名	長谷川 孝

講義の到達目標(ねらい)	編集とは、事象や物事から「何か」に気付き、その意味をつかみとり、取捨選択(評価)し、再構成し表現の形を整えて、受け手に引き渡す(伝える)という、一連の過程に自覚的にかかわる作業です。その過程で、「どう」伝えるかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを考え、自らの問いを立てるなどの力が、「実務」には求められます。そのための自分なりの「目のつけどころ」(視点)をつくり、批判力・疑問力と評価力(自らの問いを立て、問い返し、自分なりの答えを紡ぎ、再考できる力)を身につけるなど、いわば《知的基礎体力》を養うことが目標です。 また、編集というはたらきは、生活の中で誰もが日常的に行っていることです。ですから、それを自覚的(意識的)に適用することで、「編集力」や情報へのリテラシーの力を育て、情報が氾濫する情報化(渦・禍)の社会で、情報を主体的に読み取り選択して活用できるようになることを目指します。
講義の内容／ 授業スケジュール	新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、「編集という仕事」について考えます。 前期は、①編集作業の流れや関係の知識・技能の概略、②編集の意味や企画の役割、③編集の社会的な役割と責任、④記事の読み比べと取材のあり方、⑤視点のあり方や形成、⑥表現や添削の姿勢と責任などを、編集論的に取り上げます。 後期は、①編集の姿勢とマインド、②データやテキストの読みとり方とその役割、モチーフの取り立て方と表現、③原稿の執筆や直し(添削)の実際、④見出しやリードの意味と実際に書いてみる、⑤レイアウトの概要や企画の実際、⑥編集を行う主体性と自律性などを知識・技能に即して実践的に取り上げます。 生活の中の情報と編集についても、前・後期を通して取り上げます。また、関係する新聞記事の切り抜きなどを、随時、印刷して配布します。 なお、現役のライターへの来講、編集現場への訪問の機会の設定なども予定しています。
準備学習	新聞に目を通すこと。できれば、複数の新聞や、テレビのニュース、インターネットの伝え方、その違いにも注目してみてください。
履修上の留意点	授業を「取材」する(「教わる」ではなく)という構えでの参加を。そこに、多くの編集的な過程(作業)が含まれているので、編集の実践にもなると考えています。 また、授業で「取材」して「自分なりに感じ気づき考えた」こと(意見や異見)を、毎時、短い文章にまとめて提出してもらいます(「イケン文」と呼ぶ)。疑問や批判の提起を大切にします。「イケン文」の提出をもって出席表に代えます。
成績評価の方法	自己評価点を重視します。それと、「イケン文」など平常の提出物および課題作品(B4版2つ折り4ページの個人紙・誌の制作を予定)によります。
教科書／テキスト	毎時、印刷物を配布します。
参考書	適宜、紹介します。

履修コード	017901 017902 017903
科目名	民間信仰論
担当者名	川上 新二

講義の到達目標(ねらい)	まずは、先学たちが民間信仰を如何にとらえようとしてきたのかについて検討し、それを通じて民間信仰と呼ばれるものの様相を理解することに努めます。続いて、民間信仰を一般庶民、民衆の間で営まれる宗教文化ととらえて、韓国の古典文学や文献を通じて韓国の人々の信仰の様相を理解すること、また、我が国で見られる諸事例を通じて我が国の民間信仰の具体的な姿を理解することを目指します。
講義の内容／ 授業スケジュール	以下の内容を実際の授業日数に配分して講義します。 1. 民間信仰とは 2. 韓国での民間信仰の様相 3. 我が国での民間信仰の様相
準備学習	講義内容の整理を目的としたレポートで成績を評価しますので、日頃から講義の内容を十分に整理し、まとめておいてください。
成績評価の方法	回数(4~6回くらいを考えています)のレポート(講義内容を課題に応じて1200字以上でまとめる。字数および提出期限厳守。氏名、題名は字数に含めない。一行20字もしくは30字もしくは40字のワープロで作成するか、手書きの場合には原稿用紙で作成のこと。レポート用紙などへの手書きのものは受理しない)で評価します。課されたレポートをすべて提出した場合が成績評価の対象になります。レポートの課題や提出期限は授業の中で指示します。
教科書／テキスト	必要に応じてプリントを配布します(韓国の古典文学や文献を使用する場合には、日本語訳のものを使用します)。
参考書	授業で紹介します。

履修コード	016501
科目名	有職故実
担当者名	近藤 好和

講義の到達目標(ねらい)	10世紀後半以降の平安貴族社会で、和様化した公事（朝廷の儀式・政務）のマニュアルとして、令・格・式・儀式などを基礎に成立したのが有職故実である。従って、その扱う範囲は本来多岐にわたり、前近代では、有職故実研究はそのまま歴史研究でもあった。ところが、明治以降、有職故実が扱う範囲は、服飾・武具・調度・乗用具などの限定されたものになってしまった。しかし、これらが有職故実が扱う重要な分野であることは確かである。特にかかる「モノ」を実用の道具として即物的に扱うのが有職故実の特徴であり、「モノ」を現在の歴史学に取り込むためには、有職故実的な手法が不可欠と考える。また、それらの「モノ」を正しく理解することで、古典文学の理解もより深まる。そうしたなかで、本講義では、公家・武家の装束と中世の武具について講義する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期から後期前半にかけて、公家男子装束・公家女子装束・武家装束を講義する。続いて後期後半は、中世の甲冑・弓箭・刀剣について講義する。
履修上の留意点	出席などは一切取らないが、授業は体系的に進めていくので、毎時間まじめに出席しなければ、単位取得は難しいであろう。また、毎時間、プリントを配布するが、それ以外の板書も多いので、ノートは必ず必要である。
成績評価の方法	前・後期各一回の試験で判定する。具体的には、両試験の合計点を2で割り、60点以上を合格とする。なお、前期試験の成績不良者のうち、呼び出しに応じた学生に対しては、警告のうえ適切な救済処置を取る。
教科書／テキスト	特になし。毎時間、プリント(文章と図版)を配布する。
参考書	近藤好和『装束の日本史』平凡社新書 2007年 近藤好和『武具の日本史』平凡社新書 2010年